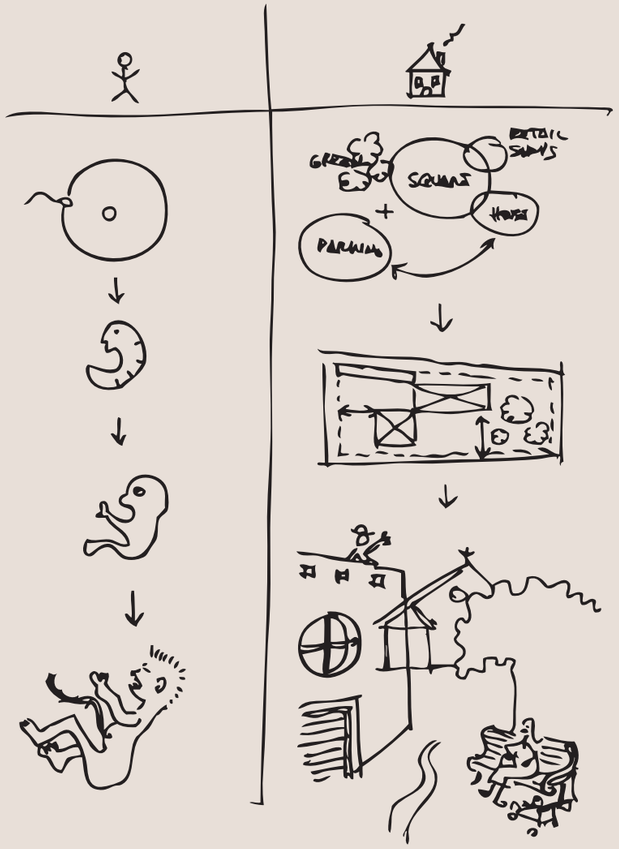
まち･･･あい

# 街愛

Slow Architecture

著：トリーニ・ヤコポ
石山　昂平




人も、まちも「作る」ことはできない。
生き物だから人、まちは「生まれる」。
元気に、そして明るく育てていきましょう。

# 目次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

建 スローアーキテクチャー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

・PROGRESS?
・SLOW
・ARCHITECTURE

家作りの具体事例 「まち」で暮らす ・・・・・・・・・・ 5

愛 愛着のあるまち ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
衣・食・住 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

家作りの具体事例 幸せの４フロア ・・・・・・・・・・ 11

感 バランス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
マテリアリティ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

家作りの具体事例 空から降りてくる幸せ ・・・・・・・ 16

個 アイデンティティ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

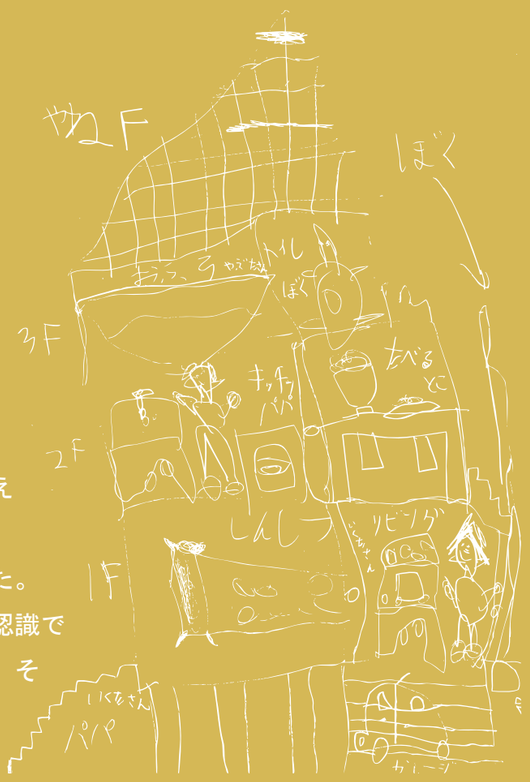
・多様性
・複雑性

家作りの具体事例 Art is flower
Life is the green leaf ・・・・・・ 21

街 コンパクトシティの文化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
地元 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

家作りの具体事例 マリントピアリゾート
まちなみ作りプロジェクト ・・・・・・ 26

# はじめに




消費文化では全ては商品とみなされる。
ご飯も商品、お家も商品。人も商品でしょうか。

子供にもっと良い世界を残したいと思いませんか。

先ず少しスピードを落として、頭と心を使って考えましょう。
この本で人、家、まちのつながりを考えてみました。
生活の中心部である「お家」の大切なところを再認識できれば、きっと住んでいるまちも明るくなります。そして好循環で人生ももっと楽しくなりますよ。

ではどう仕たら良い家が作れますかねぇ。
愛着を持って、個性を大切にしながら、前向きに想像すれば、あっと言う間に家が私たちを見つけてくれます。
良い家に出会いたいなら、家を考える必要があります。
いろんな形の家があります。緑の多い家、コンパクトな家、朝日が美しい家、良い夢が見れる家。

システムキッチンの品番から選ぶのではなくて、夢を持って、内面から家の事を考えてください。
自由に家を想像してもらうために、ご参考にプロジェクトを 8 個付けました。
また、考え事は 3 人のキャラクターがご案内いたします。

少し偏見を持って、困ったときに批判的な目で判断しますナヤミちゃん→

←意味深く、純粋な目で説明してくれる明るいメザミちゃんです。

最後、冷静に、分かりやすく話をまとめてくれるマトモ君の出番です･･･→

とても楽しいくこの本をまとめましたので、ぜひゆっくり楽しんでください。

# スローアキテクチャー

Chi va piano va sano e lontano
(Ludovico de' Medici)

## PROGRESS?

全ての人生は、「時間」と「空間」の中で発展していく･･･
「ＰＲＯＧＲＥＳＳ(＝進歩)」には「成長」とか「良くなっていく･･･」とか「前に進む･･･」なんて意味がありますね。

そしてこの言葉は、政治の世界でも、哲学でも、そしていまや経済の世界でも使われている言葉です。
「ＰＲＯＧＲＥＳＳ」は、人類を病気や飢え、将来的には死の恐れからも逃れさせてくれる･･･なんて、「良くなる･･･」というような意味合いで前向きにとらえられます。かと思うと、時には、兵器や公害、貧富の差などを引き起こす原因として非難されることもあります。

ですが実際、「ＰＲＯＧＲＥＳＳ」自体はいい意味でも悪い意味でもありません。「より生物に近い、生物に見合った変化をしていこう」という意味合いがあります。我々はこの「ＰＲＯＧＲＥＳＳ」を「ゆっくりとした変化」としてとらえていきます。




「ＰＲＯＧＲＥＳＳ」は葉っぱの成長のように長い期間の後、気付かれるような、本当にゆっくりした動きなのです。

これは「突然な変化」に対峙する言葉です。そしてこの「ちょっとした変化」は人間や動物、植物の成長の仕方に極めて近い！ということも付け加えておきましょう。実際、我々の人生において「生と死」のみ除けば、人生はゆっくり、少しずつ成長するものです。

**というわけで、我々が我々の人生をより良くするには、「ゆっくり」、コレを理解することから始めなくてはいけませんね。**

## SLOW

「ゆっくり」とは正しい決定を下すのにより時間をかけること。
「ゆっくり」とは目的に達するまでの詳細や感覚、過程を楽しむこと。
「ゆっくり」とは重要な選択肢が出てきた場合、何かする前に付随してくるであろう事や結果について考える事。
「ゆっくり」とは人や伝統、環境を大切に思うこと、リスペクトすること。
そう、「ゆっくり」は「はやくない」という意味でもあるのですが･･･ほら、あの「ウサギとカメの物語」のように！ 結果的には目的に達するための一番安全で一番の近道なんですね。

特に建物のこととなるなら･･･家を建てる際には、自然の材料と人の力も必要だし大きな投資となります。もし新しい家を建てるのであれば･･･あわてて家を建てると間違いなく後悔することとなるでしょう。

そしてその後、もっと時間をかけてその間違った部分を修正していくか、あきらめてそこに住み続けるかしかなくなります。

個人の家作りにましてもっと大きく影響してくるのが「まちづくり」です。

たとえば、「高速道路」を作った後でやっぱりこっちのほうが良かったなんていって修正できるものではありません。一戸建て以上に重要な問題となります。

**われわれはこういった「社会にも、環境にも」害を及ぼす、まるで「ファーストフード」のような建築を許してはいけません。**

**建てて壊して、建てて壊して･･･といったようなヒステリックなやり方では結果的に資源の無駄遣い、まちの質を落とすこととなります。**

**こうならないようにするには良く考え、手間隙かけて質のいい物を目指して、ＳＬＯＷなゆっくりとした建築について見直しましょう。**

## ARCHITECTURE

「建築」の意味するところは「建物を建てる」というだけではありません。「スプーンのデザイン」ひとつから「都市計画」にいたるまで･･･本当に幅広い分野に及ぶものです。

でも良く考えてみると、「建築」ってシンプルな物なんじゃないでしょうか？

イタリアのことわざに「２つの心と屋根があれば、そこから家族は始まる･･･」なんて言葉があります。

大切なのは「毎日の生活に限りなく密接であること」だと思うんです･･･。

建築において、小さいちょっとした「ディテール＝素材や部品」はとても重要となります。建築のそういうディテールと全体的なバランスは「何千枚もの葉っぱで構成されている木」のようなもので、一軒の建物の中にある小さな部品等は一つずつ実用的な目的があり、その一つ

建築もただ遠目から見るのではなく、「葉っぱのスケール」で･･･つまり、もっと近くで色のニュアンスや詳細を見たり、実際に触って、いろんな材料、それぞれの違いを肌で感じる･･･

これは「一番人間に近い見方」といえるでしょう。そして、結局それが建築の大切な要素となってくるのではないでしょうか？

逆に、たくさんの木が集まれば森となるように、たくさんの建物が集まれば今度はまちが見えてきます。部品や素材が建築物を構成し、建築物がまちを構成していく･･･

一つの建物をデザインすることはまちを構成する「細胞の一つを作る」こととなります。

**みなさんが建てる家一軒だって長い期間を通して多くの人の人生や環境に影響を与えることになるでしょうし、一つ建物を建てることにはまちづくりにおいて大きな責任が伴ってくるというわけなんですね。**

**建築という一つの手段を通じて環境とやりとりするというのが重要なんです。**

**「ＳＬＯＷ　ＡＲＣＨＩＴＥＣＴＵＲＥ」の目的は建物を「つくる」だけではなく「感じる」こと。**

**何を作りたいか、何を感じたいか、気を使って、愛情を込めて、良く考えたもの、毎日の使い勝手を考慮したうえで出来た伝統、これらはきっと意味合いのある深いものとなるでしょう。**

## プロジェクトデータ

敷地面積：108.1㎡（32.8坪）
建築面積：　58.7㎡（17.8坪）
延床面積：113.6㎡（34.3坪)+車庫 15.6㎡（4.7坪）
構造規模：木造3F建て

## 「まち」で暮らすための家

「まち」は単に人の集まりであるというだけではなく、人と人の関係性の集合であると、私たちは考えています。人々が互いにつながって、メリットを共有しあうことに意義があり、「まち」で暮らすことの快適性はそこにあるといえるでしょう。
歩ける範囲に商店や公共施設があり、日常生活で必要なことは歩ける範囲で解決できる、困ったときにはお隣さん同士で助け合える。そういった生活を楽しむために人は「まち」で暮らそうとするのではないでしょうか。

そんな生活を実現するためには「まち」に暮らす人々が「まち」との関係を良好にすることが必要です。お隣さんがどんな人か知って安心したい、お隣さんに自分の人となりを知って欲しい。
このように「まち」との関係を良好にしていくことが、「まち」で暮らすメリットを享受するための第一歩になるのではないかと考えます。

そうした「まち」との関係を作るために、住まいのプライバシーは確保した上で、住まいと「まち」の間にパティオを設けることによって、「まち」とのコミュニケーションをつくれるのではないだろうか、と私たちは考えました。正面に設けたショップともうまく連携させれば、天満の「まち」の表情に彩りをもたらす、素敵な住まいになるに違いありません。

この住宅には「まち」で暮らすための様々なアイデアを盛り込みました。

**■大阪とパリの共通性**
歴史的な都市である大阪。河川を拠り所として自然発生的に人々が集まってできた繁華街には、〝ミセ〟を持った住まいが軒を連ねてきました。天満という街もまさにその典型と言えるでしょう。一方、ヨーロッパの歴史的な都市であるパリにも、通りには人々の目を楽しませる〝boutique〟を持った住まいが並んでいます。街の人々が互いにメリットを提供しあう生活スタイルが、都市の快適性を高めるのではないでしょうか。

## キーワード

■アーバンコンフォート（都市的快適性）
街の人々にも開かれた空間を持つことでコミュニケーションを促し、互いの安心につなげます。中庭は、メンテナンスの容易な玉石舗装で仕上げるなと、都市的な快適性を追求することも忘れてはなりません。限られた土地で豊かに暮らすために、テラスにも緑を配置します。植物たちにとっても、太陽に近いテラスで育つことが適切であるのは言うまでもありません。

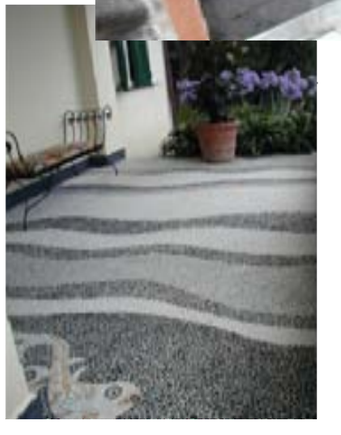
■フレキシビリティ（柔軟性）
私たちは、将来の家族構成や生活スタイルの変化に対応できるフレキシビリティの高い住宅を提案します。プライベートスペースとパブリックスペースは、連続した空間により有機的につながります。住み手の生活スタイルの変化に対応して、柔軟に仕切り方を変えられるような空間をつくります。通り庭や裏庭に増築のためのスペースを考えているのも一つのアイデアです。

■クリーンリネス（分かりやすく使いやすいこと）
それぞれの部屋は、使い勝手に従って流れるように配置されているべきです。生活のシークエンスがそのまま部屋の配置になっているような住宅は、分かりやすく使いやすいことは言うまでもありません。また、住宅では、収納やサービス空間がしっかりしているべきだと考えます。ウォークイン・クローゼットや、物入れ、ユーティリティルームなどの豊かな収納・サービス空間を設け、本当に必要なスペースが常にすっきりと片付いている状態が、分かりやすく使いやすいと考えています。また、大きめのシューズクロークや壁面を使った書庫スペースは、毎日の生活を便利で整然としたものにしてくれます。

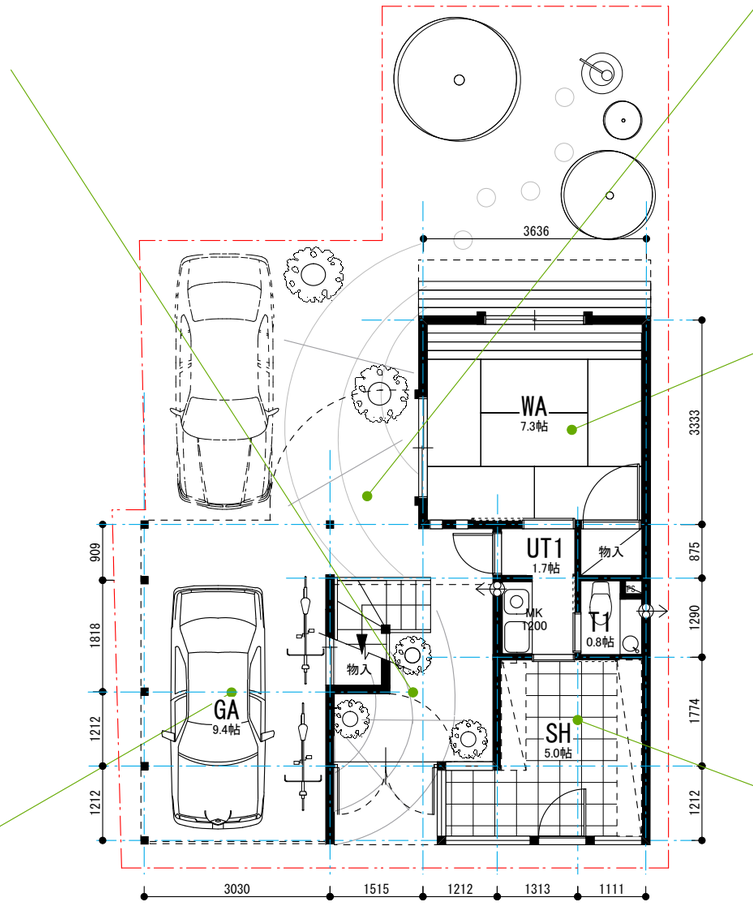
■ナチュラル（自然素材）
私たちは自然の素材の質感と色彩を大切に考えます。自然素材は、新建材と異なり、年を経るごとにその表情を豊かにしていきます。自然素材は、多くの緑・本当の自然とあいまって、様々なシチュエーションを豊かに演出してくれます。

■**パティオ　（中庭）**
建物が密集する街のなかで、開放的かつ安心できる場所としてパティオを設けています。ここが「まち」と住まいとを結ぶコミュニケーションスペース、あるいは「まち」と住まいの間のクッションの役割を果たします。
通りから見えるこの空間は第二のパブリックスペースです。エントランスのアイアンの扉を開け放てば、仲間や近所の人たちが集うことのできる憩いの空間に変身します。
晴れの日には抜けるような青空を、雨の日にはしっとりと濡れた表情で迎えてくれるでしょう。外から帰ってきたときにもホッと安らぐ空間であるに違いありません。

パティオはまた、上下の空間をつなぐ役割も持っています。一般的には連絡通路でしかない階段室も、このようなパティオの一部となることでその価値を高めることになります。



■**ガレージ**
通常は乗用車１台分のスペースが確保されていますが、来客時など、奥の庭も利用することで２台の駐車が可能となるフレキシブルな構成です。
「まち」で暮らすための必需品である自転車を置くスペースも設けました。




1F平面図
床面積：25.8㎡+車庫15.6㎡（7.8坪+4.7坪）　SC= 1:100

■**通り庭(Promenade Architecturale)**
エントランスからパティオを通って裏庭に至る通路は、町屋における通り庭を連想させます。
また、この通り庭は、川の流れのように緩やかに蛇行し、あるときは空を見、あるときはくぐり抜けるといった、変化に富んだ建築の散歩道でもあります。自分の家を眺める場所がいくつも存在することは、住まいを実感できる重要なポイントです。
増築の必要が生じた場合には、通り庭と裏庭は、増築のためのスペースとして利用することもできます。

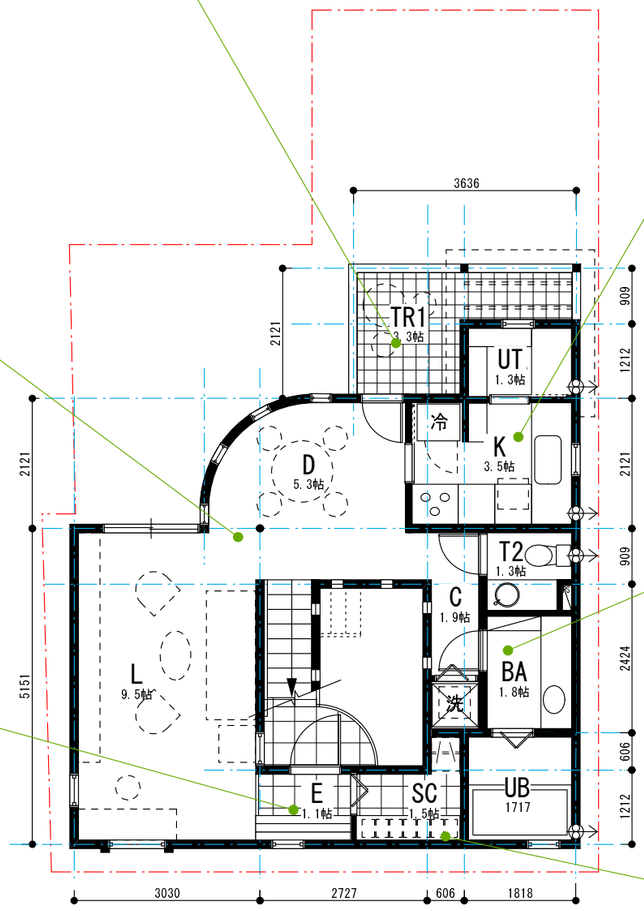
■**和室**
家の奥に置かれた落ち着きのある和室からは、裏庭を望むことができ、例えば５月ならハナミズキの白く咲き誇る姿など、季節感を身近に味わうことができます。縁側の存在は、和室と外の自然とを有機的に結びつけてくれます。
また、ユーティリティースペースにも隣接しており、生活面での利便性にも配慮しました。
訪れる人のくつろぎのスペースや、ショップの一部として利用することも可能です。

■**ショップ　（表現の場）**
趣味のものは自分だけで終わらせず、人にもアピールすることでさらに充実することでしょう。ショップスペースはそのための場を提供します。また、住人の嗜好が道行く人にも分かるということは、互いの理解を深める第一歩です。ユーティリティースペースを奥に控え、使い勝手も十分です。

■**バックテラスー１**
食事のあとのひととき、ティータイムなど、屋外でのくつろぎにお使いください。
物干し場としても使えるテラスとして用意しました。

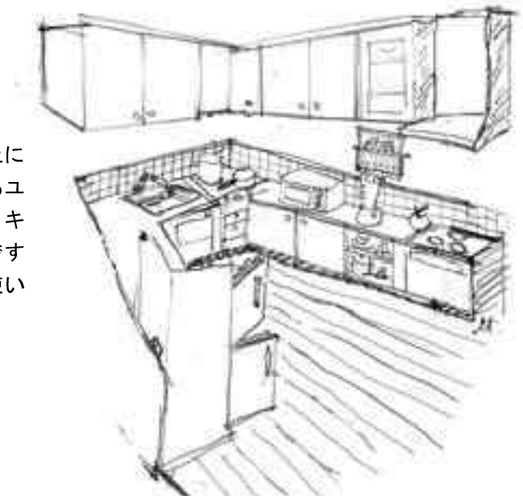
■**ダイニングーリビング**
丸い壁に、反復される縦長の窓、そして丸いテーブルに集まれば和やかな雰囲気が生まれます。
ダイニングからリビングへは緩やかにつながり、一つの空間として意識することもできます。リビングはピアノやオーディオ鑑賞、読書などで過ごせる書斎的なプライベート空間ですが、仲間とのパーティでは大きなリビングダイニングの中のひとつの居場所のように機能することでしょう。

■**玄関**
玄関はあえて２階に設けました。階段を上がることによって真のプライベート空間に入る構成です。
必要最小限の大きさに留めていますが、壁側に設けた上がり框の下に履物が入れられるため、視覚的にスッキリとしたものになっています。




## 2F平面図

床面積：49.7㎡（15.0坪）　　SC= 1:100



■**キッチン**
コンパクトながらも、動線上に食品庫や作業スペースとなるユーティリティーを設置した、キッチンワークステーションです。洗濯機やトイレにも近く使い勝手は良好です。

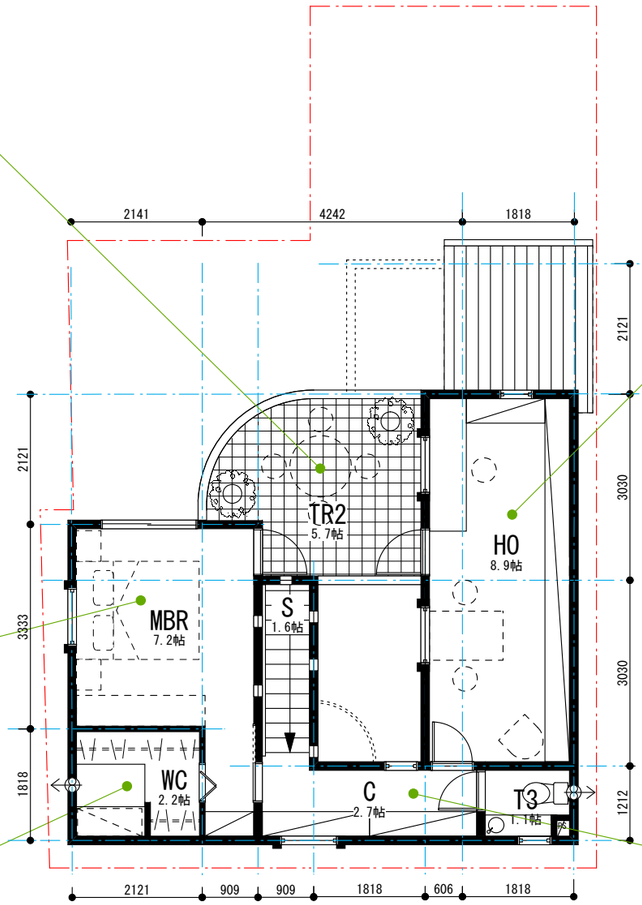
■**サニタリー**
リビングスペースからもキッチンからもアクセスしやすい位置に、必要十分なスペースを持った洗面・バスルームを配置しています。生活行為の流れが分かりやすくシンプルです。

■**シューズクローク**
玄関の脇に大きなシューズクロークを設けました。
日常の靴の出し入れは玄関の簡易収納から行えるため、独立した部屋としています。
靴は使い勝手のよい９段のシューズ棚に収納します。（45足以上収納可能）クロークに入れば靴を全て見渡せるとともに、一部をニッチにしてお花などが飾れるようにしています。

■**バックテラス２**
寝室からも、ホームオフィスからもすぐにアクセスできるため、朝目覚めたらテラスに出て爽やかな空気に触れたり、仕事や読書の合間にここで深呼吸したり、あるいはちょっとしたティータイムに使うこともできます。

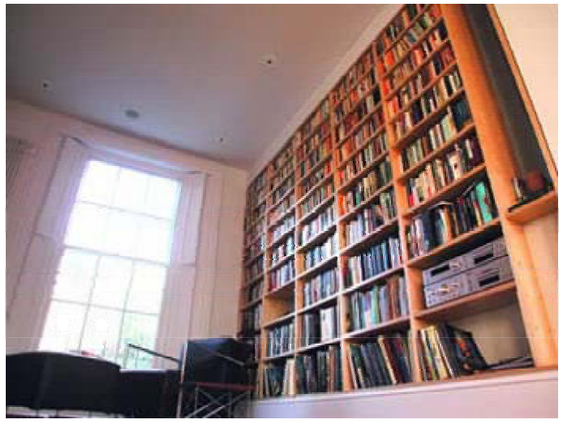
■**主寝室**
朝の日差しと、柔らかな北側の光が取り込める安らぎの空間です。ホームオフィスとは同じフロアにありながら、別棟にあるような距離感を持たせることで、寝室としての快適性を高めています。

■**ウォークインクローゼット**
通常のウォークインクローゼットとともに、和ダンスが設置できる部屋です。和服の着付けを考慮して畳敷きの仕様にしています。




3F平面図
床面積：38.1㎡（11.5坪）　SC= 1:100

■**ホームオフィス**
壁面一杯の書棚は、図鑑（30㎜厚）で1,500冊以上の収納が可能です。調べものに便利なワイドなテーブルやコンパクトな打合せスペースは、北側の窓辺に沿って配置することで、安定した自然光を得ることができます。
トイレもすぐ隣にあり、オフィスワークに集中できる環境を備えています。



■**廊下**
オフィスへのアプローチとなる廊下には、書棚（図鑑600冊以上）を収納できる書庫としての機能を備え、空間を有効に利用しています。

## 西立面図（正面）

SC= 1:100

## 東立面図

SC= 1:100

**■窓枠のデザイン**

イメージはBurano島(ベネチア)の町並みです。
建物の窓の枠が厚くつくられています。これにより、建物の外観にアクセントが加えられているのみならず、壁の厚みが実際よりも厚く見えるという効果を生んでいます。外観のバランスもよくなり、すっきりとしたファサードを形作っています。

**■カラフルな外観**

Buranoの町では、カラフルな石膏の壁は、300年以上の時を経た今でも、私たちに新鮮な印象を与えてくれます。こうした色彩が建物それぞれに個性を与えてくれいていることも見てとれます。住宅の外観のパーツ毎の色彩を上手に計画することで、バランスのとれた、分節のしっかりした長持ちするデザインとなるのです。

# 愛着のあるまち

All you need is love
(John Lennon)

言うまでも無く、愛が「全世界において素晴らしい物である」ことは疑いの余地も無いでしょう。

愛にお金は要りません。ですが、愛を与える人はなぜか嬉しくて、愛を受けた人は、もっとたくさんの愛を返そうと考えます。そしてその愛を受け取った人もまた更なる愛を･･･　このようにして「いいサイクル」が生まれていきます。

あなたは自分のまちを愛していますか？

「まちを愛する」とは、まちをリスペクトして、まちの歴史を大切にして、そのまちでの思い出を大切にして、まちの個性を守っていくことです。

イタリアでは、窓辺に花を飾る習慣があります。

まあ、ゼラニウムを使うことで、家の中に虫が来ないようにする効果もありますが･･･本来の目的はその家に面した道を通る人に気持ち良く感じてもらいたい。また、自分の家をきれいに飾ることで「この家はきれいだ」と思われたい、家に誇りを持ちたい、といったところでしょう。

結果、道行く人々は「この家の人はセンスがいいな」と思い、どこか良い気分になり、「まちをきれいにすること」をもっと意識するようになります。自然とゴミを捨てないようになり、まちを歩くこと自体が楽しみになります。

こういうところからまち全体のイメージはいい方向に変わっていくものなのでしょう。

きれいなまちには観光客が集まり、結果、まちの景気も良くなります。きっと不動産的価値も高くなるでしょう。人もまちも元気になるのです。

**まさに愛情から愛情が生まれ、育っていき、そこから付加価値も生まれてきます。**

**市民はそのまちに投資をしている株主のようなものです。会社も家もまちの一部であり、一人一人の行動が、そのまちへの投資としてまちに働きかけ、そのまちのステータスと繋がっていきます。**

**愛は、与えれば、付加価値がついて戻ってくる物です。ですが、そんな見返りは考えずに、たっぷりと注がないといけません。**

**不動産や経済、その他の価値は、後から付いてくるもの。**

**とにかく無償の愛をまちに注いで見て下さい。**

# 衣・食・住

雨ニモ負ケズ･･･風ニモ負ケズ
（宮沢　賢治）

人の生活を支えているのは、衣・食・住と言われています。

良い服、美味しい食事は私たちの健康を守って、精神的にも幸せにしてくれます。もちろん、住も同じく、毎日雨風から守りながら、家族との絆を深めてくれるのはお家です。

しかし、私たちの生活に影響を与えている衣・食・住は良い影響もあれば、悪い影響もありえますので気をつけなければなりません。

せっかくいい気分なのに、美味しいくないご飯を食べたら、がっかり！

せっかくやる気があるのに、間違ったサイズのお洋服を着るとだらだらと、自分を律する気持ちがなくなっちゃいますね。

建物、まちも同じく、良ければ、毎日笑顔にさせてくれるのですが、雰囲気が暗くて、使いにくい家に住んでいる人はブルーになっちゃいます。

衣・食・住はどれも大切、どれも私たちの生活になくてならないものです。しかし、一つ違いがあります。

「蓄性です」

「食」はインスタントの効果があります。食べたら、すぐ幸せになる。

しかし、数時間がたったら、またおなかが空いて来るでしょう。

「衣」に関しては、もちろん洗濯をしなければならないですが、良い服は少なくても一季節は体を守りながら、自分らしさを演出してくれます。

「住」は一番「蓄性」が高いものです。家を建てるのに、早くても４～５ヶ月かかります。（ヨーロッパなら２～３年かかるのは一般常識です。）どっちにしても、心地よい空間を作るためには（家具を揃えるなど）また時間がかかりますね。

しかし、良い建物は家族を全面的に支えながら、数十年幸せにしてくれます。

その日はご飯が不満足でも、お洋服が汚れて、落ち込んでいる時でも、良いお家から漂っている香りは前向きな気持ちにしてくれます。

そのような建物は勝手にまちにもいい影響を与えて、長～い間くるくると何もしなくても好循環になります。

ここで気を使わなければなりませんが、悪い建物は同じく悪影響を与えます。耐久性がありますので、悪い建物でも一度建ててしまったら何年も、何十年も悪循環の元になるでしょう。

**だから、「住」に関して責任を持って十分の検討は必要ですね。**

## プロジェクトデータ

敷地面積：62.37㎡（18.9坪）
建築面積：35.25㎡（17.8坪）・56.5%
延床面積：93.35㎡（35.3坪）・149.6%
構造規模：RC-Z地下1階地上２階建て

# 幸せの４フロア

「限られたスペースでも家族みんなで暮らしたい」という気持ちに応えます。住みたい場所があれば、そこでずっと暮らしたいと誰もが思うでしょう。たとえ限られた敷地しか確保できなくても、そこでなんとか暮らしていきたい。そんな思いを実現させるためのプランです。

家族が長く暮らすためには、お互いのコミュニケーションとプライバシーを両立させる必要があります。夜は、ご飯を食べてテレビを見る、そしてそのままだんらんのひとときが始まっていく．．という「お茶の間」がひとつあるだけで日本人の原風景ともいうべき生活が見えてきます。このために、あえて大きな空間は必要ないのかも知れません。

さらにそうした中にも、家族がそれぞれの時間を持つことができれば、安心してそこで暮らしていくことができます。共有空間を最小限かつ高密度にしたあとにそれぞれの居場所を確保していけば、プライバシーの実現も可能になります。

また、家族は時間とともに変化します。それぞれのライフステージに柔軟に対応するためには、しっかりとした構造を用意しておいて、内部をフレキシブルに分割できることが必要です。

コミュニケーション、プライバシー、そして変化。家族の暮らしにジャストフィットな９０㎡は大きな可能性を秘めています。

**■オアシス**
限られた恵みをみんなで分かち合う。それがオアシスのルールです。決まった場所にみんなが集まれば、小さな社会ができあがります。また、新しいオアシスを作ることも大切です。例えば屋上緑化。ヒートアイランドにしないためにも、社会に対してできることをやっておきたいものです。それは同時に、自分たちにとっても有益なことなのです。

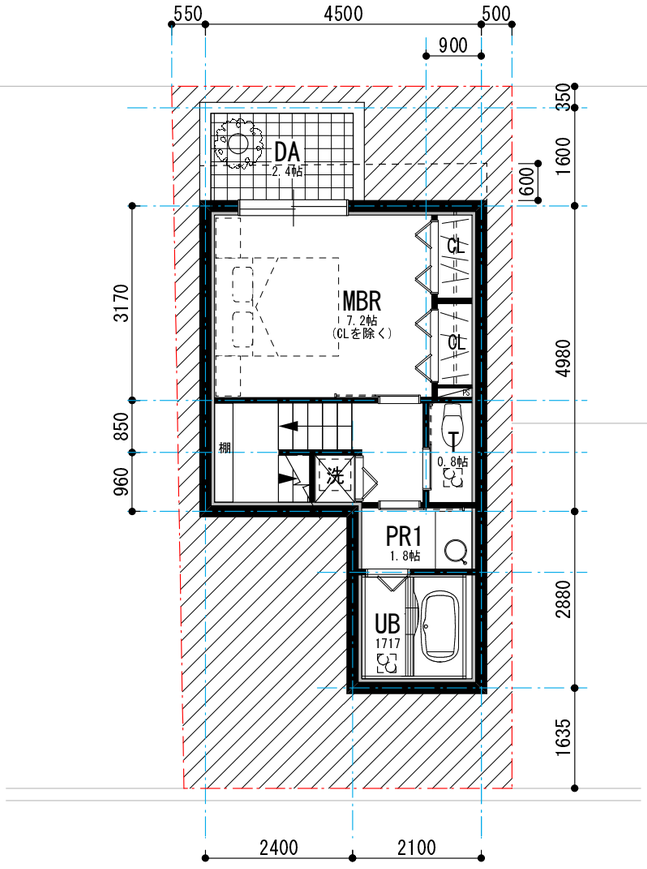
## キーワード

■アーバンコンフォート（都市的快適性）
街の人々にも開かれた空間を持つことでコミュニケーションを促し、互いの安心につなげます。バルコニーやテラスを設けたり、屋上緑化を行うなど、都市的な快適性を追求することも忘れてはなりません。限られた土地で豊かに暮らすために、テラスにも緑を配置します。植物たちにとっても、太陽に近いテラスで育つことが適切であるのは言うまでもありません。

■フレキシビリティ（柔軟性）
私たちは、将来の家族構成や生活スタイルの変化に対応できるフレキシビリティの高い住宅を提案します。プライベートスペースとパブリックスペースの概念を明確にしながらも、住み手の生活スタイルの変化に対応して、柔軟に仕切り方を変えられるような空間をつくります。

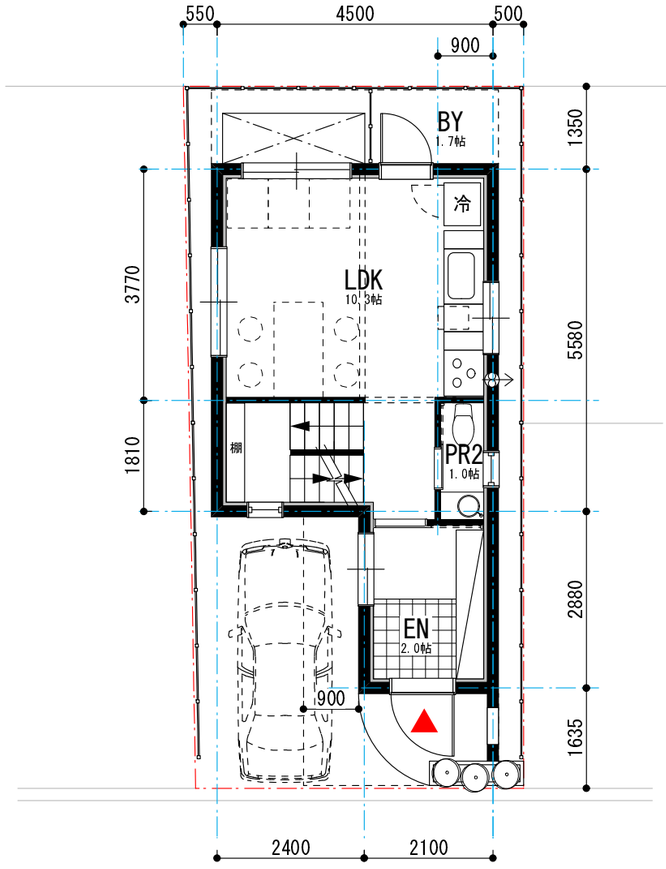
■クリーンリネス（分かりやすく使いやすいこと）
それぞれの部屋は、使い勝手に従って流れるように配置されているべきです。生活のシークエンスがそのまま部屋の配置になっているような住宅は、分かりやすく使いやすいことは言うまでもありません。また、住宅では、収納やサービス空間がしっかりしているべきだと考えます。ウォークイン・クローゼットや、玄関収納、などの豊かな収納・サービス空間を設け、本当に必要なスペースが常にすっきりと片付いている状態が、分かりやすく使いやすいと考えています。また、大きめのシューズクロークや壁面を使った書庫スペースは、毎日の生活を便利で整然としたものにしてくれます。

■ナチュラル（自然素材）
私たちは自然の素材の質感と色彩を大切に考えます。自然素材は、新建材と異なり、年を経るごとにその表情を豊かにしていきます。自然素材は、多くの緑・本当の自然とあいまって、様々なシチュエーションを豊かに演出してくれます。




## 地下1階平面図

床面積：29.2㎡（8.8坪）　　SC= 1:100




## 1階平面図

床面積：30.4㎡（8.8坪）　　SC= 1:100

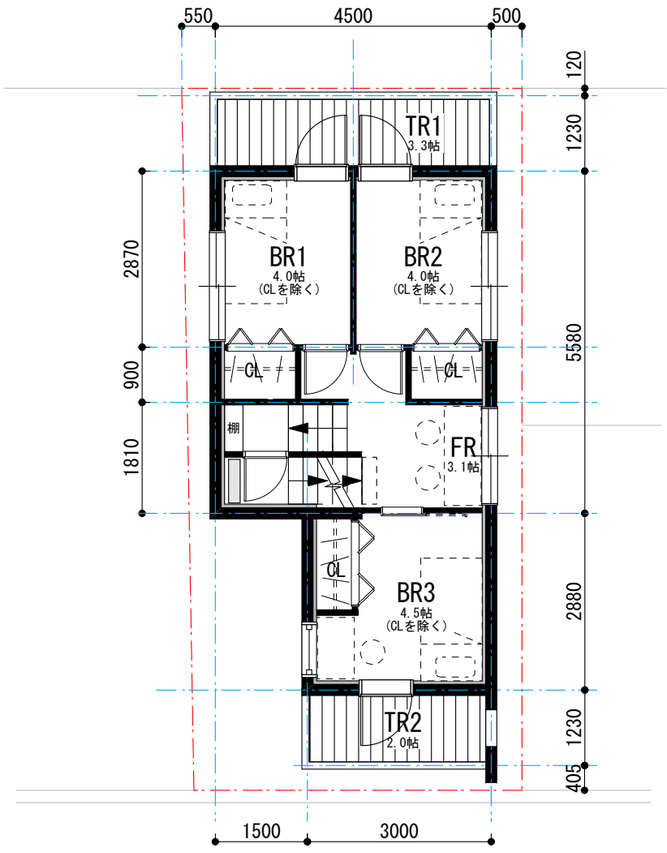
# デザインポイント

**■ドライエリア**

ビクトリア王妃時代のロンドンからインスピレーションを得ています。地下はドライエリアによって採光と換気を確保した静かでくつろげる空間です。
白い壁とアクセントになる緑の存在が明るい雰囲気のプライベートスペースを創り出します。

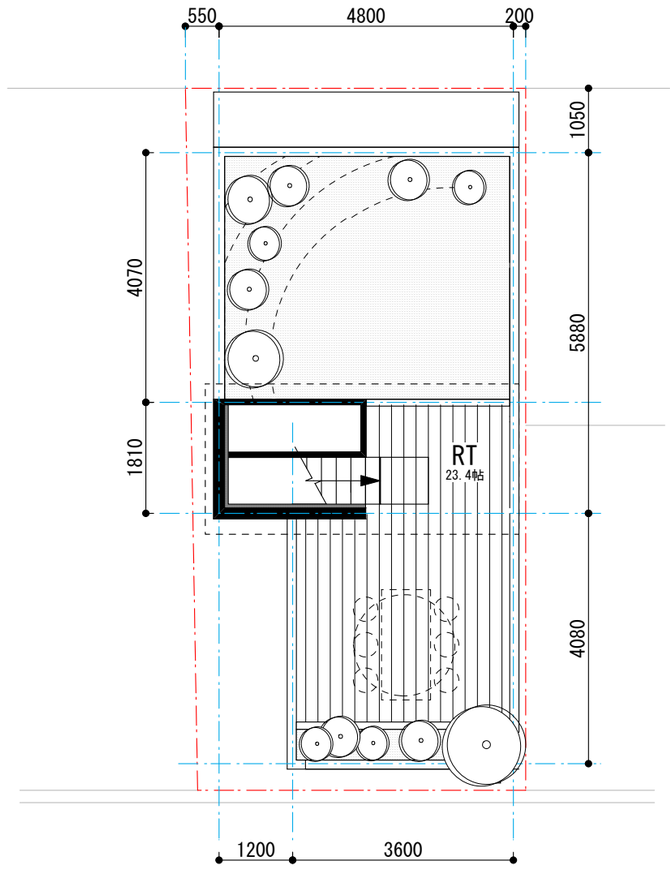
**■高密度なファミリースペース**

我々はキッチンをインテリアの主要な一部として考えています。そして、カジュアル、ハイテック、ミッドセンチュリー等のキッチンを見せるインテリアを提案します。
機能の面では標準的なスペースを確保した使いやすいＩ型。ＬＤと分離せずに空間を広く使えます。




2階平面図

床面積：32.0㎡（9.7坪）　　SC= 1:100




屋上平面図

SC= 1:100

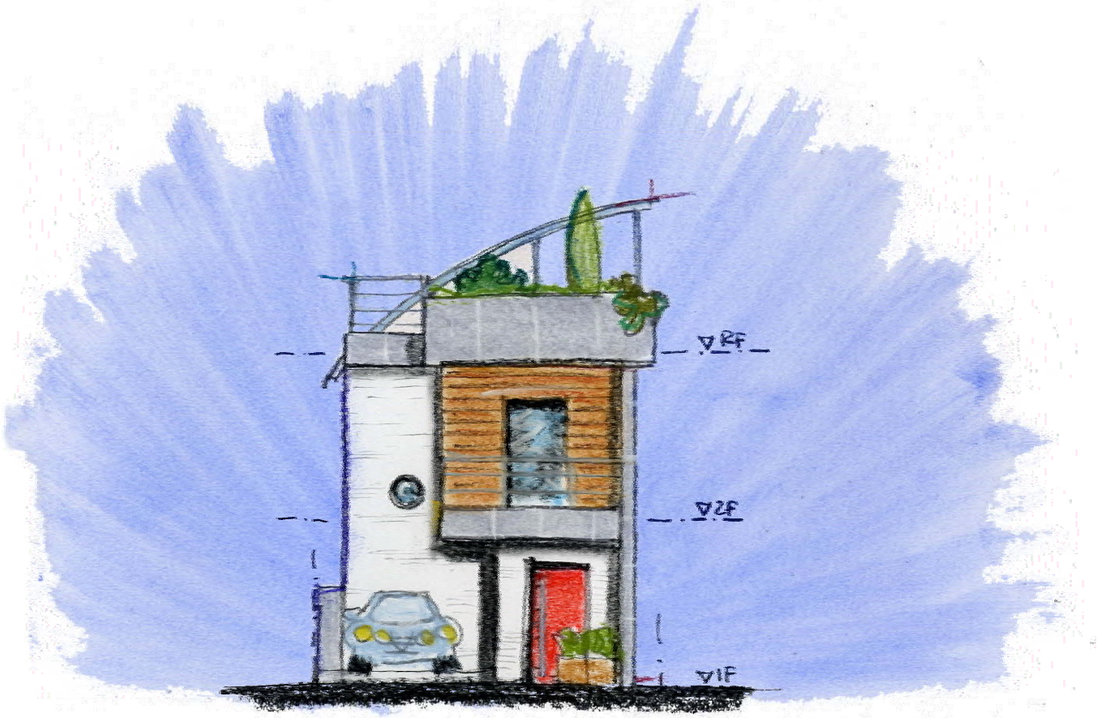
## デザインポイント

**■スキップフロア風ライブラリー**

階段の踊り場には、壁面一杯の書棚。図鑑（30㎜厚）で700冊以上収納が可能です。調べものにフリースペースを使用すれば、ちょっとした書斎ができあがります。退屈になりがちな階段スペースに表情と奥行き感を持たせています。

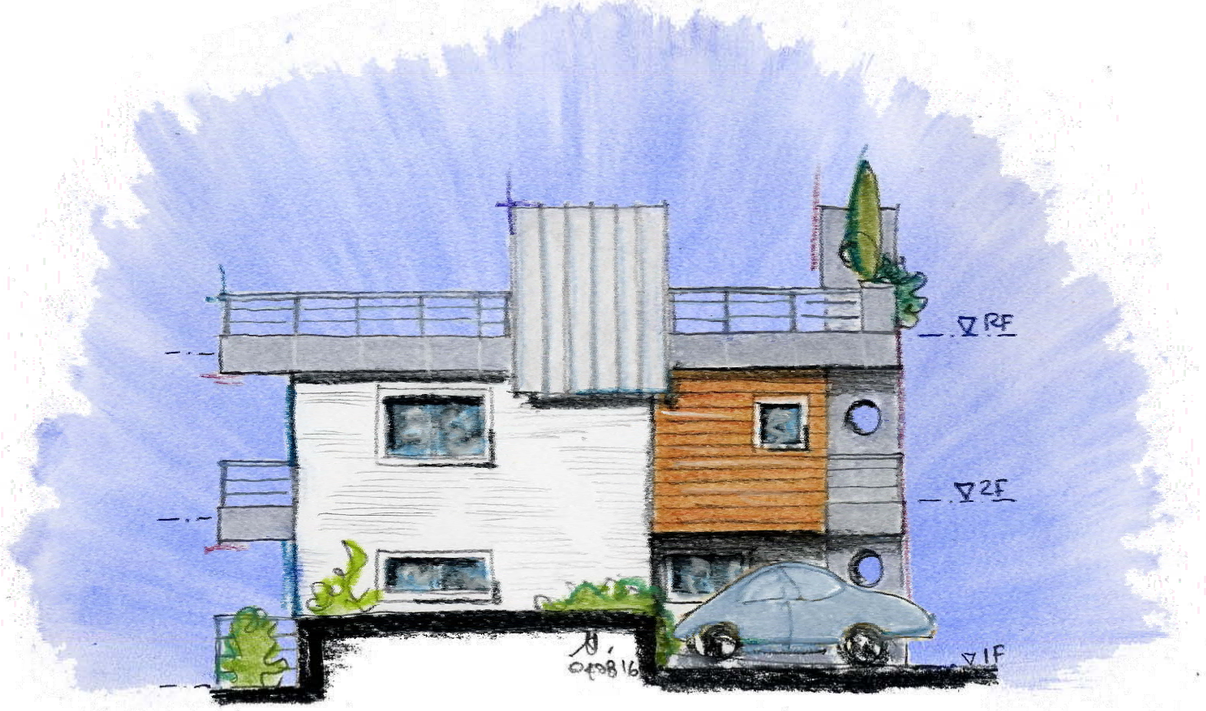
**■屋上テラス**

屋上テラスは、そこに居る人を特別な存在に感じさせてくれます。リビングの次の第二のファミリースペースにもなっているこのエリアは、屋上緑化など緑豊かなオアシスとして機能します。




西立面図（正面）

SC= 1:100

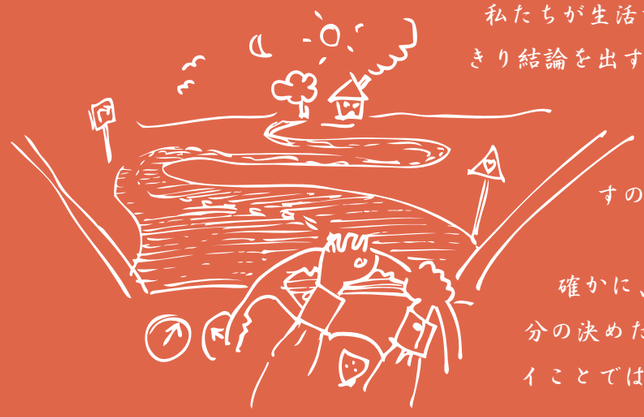



北立面図

SC= 1:100

# バランス

In medio stat Virtus
(Aristoteles)



私たちが生活する現代では、何事においてもはっきり結論を出すことが良しとされているようです。

イエスかノーか、右か左か、保存するのか壊すのか･･･

確かに、はっきりとした結論を出し、ストイックに自分の決めたポリシーに従い、直進しかしないのはカッコイイことではあります。

しかし、車の運転のように、直進する時でも左にいったり、行き過ぎないように右に行ったり、道に沿ってわずかに方向を調整しながら進んで行くものではないでしょうか。
左だけ、右だけ、まっすぐだけというのはありえないことでしょう。

目的にたどり着きたいからこそ、状況にあわせて、方向性を修正していく。出発からゴールまで長いスパンで見たら、別にポリシーを曲げていることにはならないのではないでしょうか。

アリストテレスは、「真ん中が正しい･･･」なんて言いました･･･全ての分野において「完全な善」というものは･･･もちろん「完全な悪」だって無いはずです。

大切なのは「バランス」をとることなのではないでしょうか？

**「バランス」はSlow Architectureを達成するための大切なキーワードのうちの一つです。**

**便利なまち、個性的なまち、誰にでも平等なまちをつくる方法は一つだけではありません。**

**現代の都市計画はいろんな分野やニュアンスがありますが、Slow Architectureの目的は、調和の取れたまちづくり、それを忘れないようにしないといけません。**

**Slow Architectureは、何かを決断するときには、バランスを大切にしたいのです。**

# マテリアリティ

felicita` e` come toccare il cielo con un dito

五感ー視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚･･･五千年ほど前から私たち人間は「五感」によって周りにある環境や、世界を感じてきました。

また、感じるだけでなく、五感を使うことで道が分かったり、食べ物を見つけたり、危険を避けたり、他人とのコミュニケーションをとったり、学んだり、自分の経験を積み重ねてきました。

一般的に五感といわれる「見る、聞く、匂う、味わう、触れる･･･」という能力は、レンズやスピーカーを使うなど、テクノロジーの発展によって、よりその限界を伸ばしています。さらに私たちは、赤外線レーダーなどを使うことで、これまでは見えなかったものを認識したり、触れていない物まで感知できたり、「人間の感覚」を越えた能力まで得てしまいました。どんな場合にせよ、「感覚」は　私たち人間と現実世界をつなげてくれていて、私たちは、頭を使い、その時、最も重要と思われる感覚を使って、情報を入手するようにしています。

本来、目で感じるべきなのは「光」であり、その他の物はそれに応じた感覚を使って感じる必要があるのです。

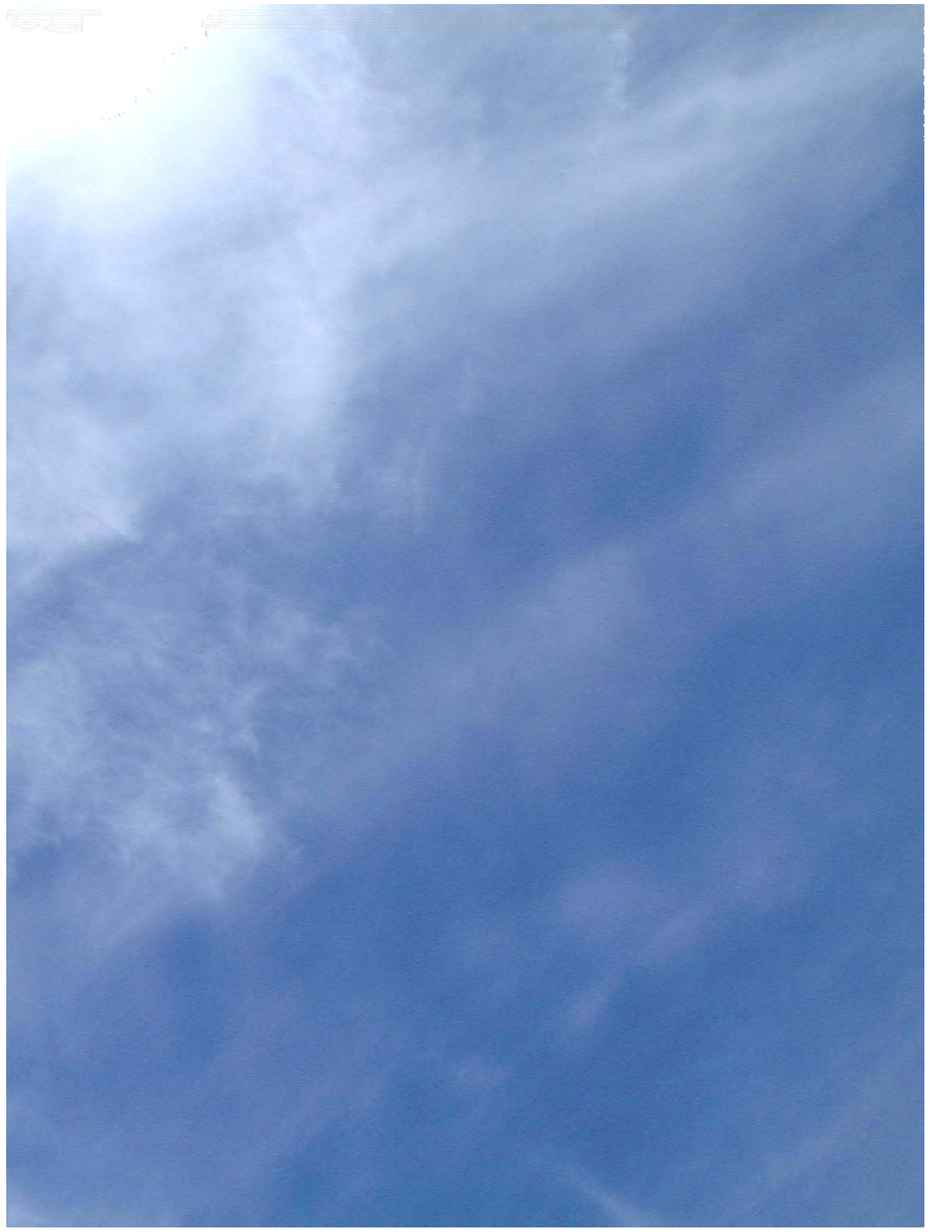
しかし、今日私たちがコミュニケーションや情報交換に一番利用している感覚は間違いなく「視覚」ではないでしょうか？もちろん、視覚をふんだんに利用することで、見える情報でコミュニケーションがとれたり、何かをデータとして保存できたり･･･たくさんの利点もあります。でも同時に、1つだけの感覚に頼りすぎて、「他の感覚が鈍ってくる」･･･これって、とても重要な問題だと思いませんか？

「あらゆる感覚をフルに使う」ことは間違いのない「リアル」な世界を感じることができますが、「視力だけに頼りきる」ことはときに蜃気楼を見るように、まやかしに気づかなくなってしまったり、バーチャルな世界に入り込んでしまう危険性もあるんです。

**建築においても、建物そのものが、バーチャルなものではなく、ちゃんと「存在するもの」とあらゆる感覚で感じる事ができるものであることを大切だと考えます。**

**ですから建物を建てる際は、「建物だって感覚に影響を与える」ということを意識して建てなくてはいけませんね。**

**だって、建物は、私たちの体と心に影響を与えていくのですから･･･。**



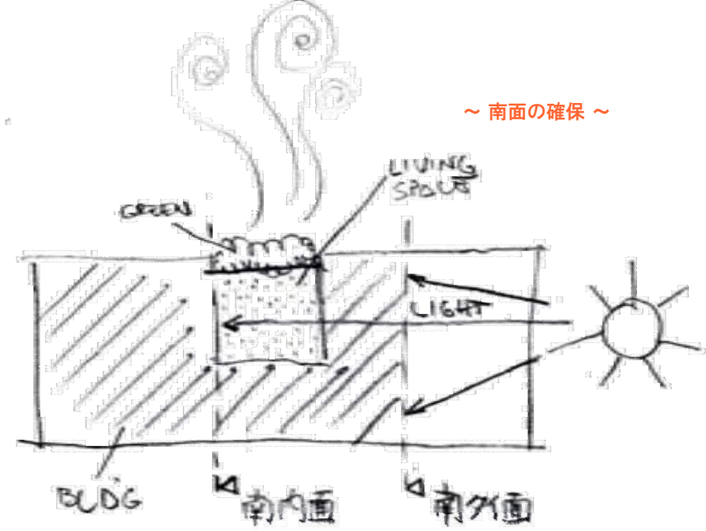
## プロジェクトデータ

敷地面積：138.7㎡（42.0坪）
建築面積：　76.9㎡（23.3坪）＝55.4%
延床面積：139.6㎡（42.3坪）＝100.6%
造規模：木造2F建て

# 空から降りてくる幸せ

■まちに暮らす
　いにしえの時代から、京には多くの人々が集まり、暮らしてきました。"都心"というような冷たい響きの言葉は似合わないこの街は、人々の暮らしとともに存在しつづけています。通りから少し入れば、静かな佇まいがあってやさしい空気に包まれる。互いに軒を連ねながらも緩やかに分けられた個人の空間があって、みな安心して暮らしていられる。活動と休息の適度なバランスを保ちながら生きられる街なら、長くそこに住まいたいと誰もが思うことでしょう。

■自然を取り込む
　町家には坪庭、寺社には枯山水、というように、自然との関わりは暮らしの中の当然の要求としてあるものと思います。自然は何か不思議なエネルギーを持っているに違いなく、それを意識しながら暮らすことは何らかのポジティブな効果をもたらすと考えられます。この意識は街なかにあってはどうしても忘れがちだからこそ、あえて自然を取り込もうとする努力があるのだと思います。




～ 南面の確保 ～

南北に長い建物に、南からの日差しを取り込むためには、複数の南面を意識的に作り出す必要があります。
一つは玄関側に、もう一つは中央のリビングスペースに南面を設けることを間取りのコンセプトにしています。

■空への意識
　晴れ渡った空を仰ぐととても清清しい気分になります。そして、空は晴れたり曇ったり、雨が降ったり、季節が変わればまた違う表情も見せてくれます。
　街なかで手軽に手に入る自然といえば、"空"ということになるでしょうか。空は誰の上にも存在していますが、あえて意識することは意外に少ないと思います。そこで、住まいの中に"空"を取り込んでみようというのがこのプランです。居ながらにして空を感じられる生活。たとえ他に特別なことをしなくとも、自然とともに暮らしている実感を感じることができるでしょう。

## キーワード

○ナチュラル（自然素材）
私たちは自然の素材の質感と色彩を大切に考えています。自然素材は、年を経るごとにその表情を豊かにしていきます。自然素材は、多くの緑・本当の自然とあいまって、様々なシチュエーションを豊かに演出してくれます。

○クリーンリネス（分かりやすく使いやすいこと）
部屋は、使い勝手に従って流れるように並ぶのが使いやすいでしょう。生活のシークエンスがそのまま部屋の配置になっているような住宅が、分かりやすく使いやすいと考えています。収納やサービス空間がしっかりしているべきだと考えます。ウォークイン・クローゼットや、物入れ、ロフト、ユーティリティルーム、などの豊かな収納・サービス空間を設け、本当に必要なスペースが常にすっきりと片付いている状態が、毎日の生活を便利で整然としたものにしてくれます。

○フレキシビリティ（柔軟性）
私たちは、将来の家族構成や生活スタイルの変化に対応できるフレキシビリティの高い住宅を提案します。プライベートスペースとパブリックスペースは、連続した空間により有機的につながります。住み手の生活スタイルの変化に対応して、柔軟に仕切り方を変えられるような空間をつくります。

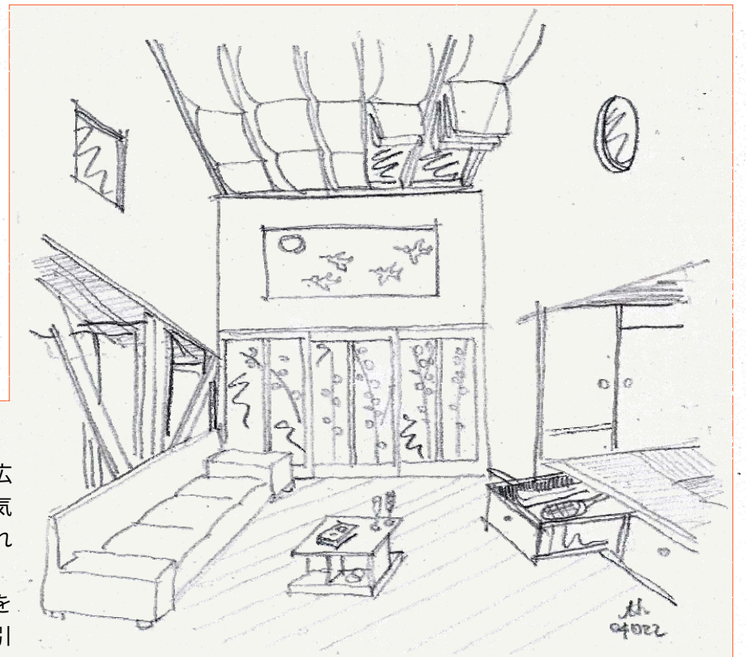
○アーバンコンフォート（都市的快適性）
前庭は、メンテナンスの容易な玉石舗装で仕上げるなど、都市的な快適性を追求することも忘れてはなりません。限られた土地で豊かに暮らすために、住宅の屋上やテラスといった外部空間の緑化を考えます。植物たちにとっても、太陽に近いテラスで育つことが適切であるのは言うまでもありません。

■テラス

庭にせりだしたテラスは楽しむための庭です。食事の後やブレークタイムに、ちょっと気分を変えてみたくなったら、外の空気に触れてみましょう。扉を開け放てば、ダイニングやリビングなどと連続した空間となり、大人数のパーティなどにも対応できます。

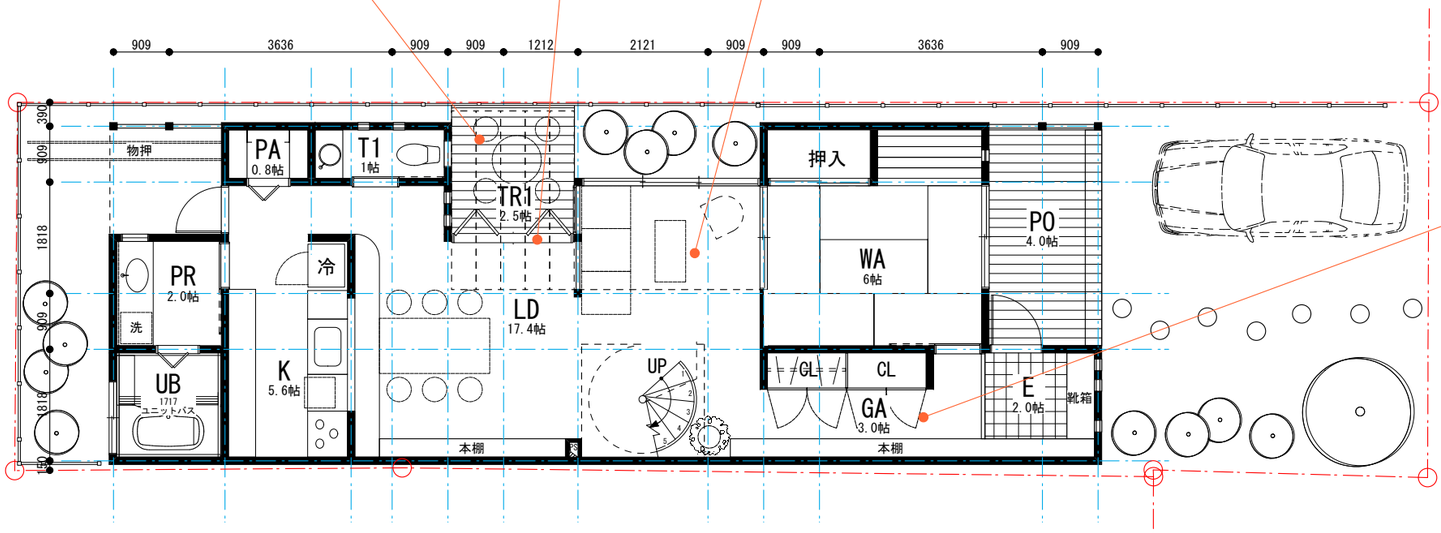
■コンサバトリー

部屋に居ながらも屋外にいるような感覚は、英国生まれのコンサバトリーのイメージ。ダイニングやリビングから、あるときは晴れ渡った空を、あるときはガラスに伝う雨だれを眺めるなど、贅沢な時間を過ごすことができます。
また、日差しの強い日にはスクリーンをひいたり、爽やかな日にはドアをオープンにしてデッキと一体にするなど、柔軟性をもった空間でもあります。



■吹き抜けのリビング ～ 和室

天空からの光を取り入れると部屋全体が明るくなります。リビングの頭上に広がる吹き抜けは明るく開放的な空間。夏など、トップの窓を開ければ暑い空気を逃がすこともでき、冬の晴れた日には閉め切ると温室のような効果も生まれます。いわば光と風の通り道。この家の中心的な場所となっています。
リビングに面した和室は床を一段高くすることで、他の部屋との視線の関係を調整しています。床下に出来たスペースには、リビングから出し入れできる引き出し収納を設けることが可能です。



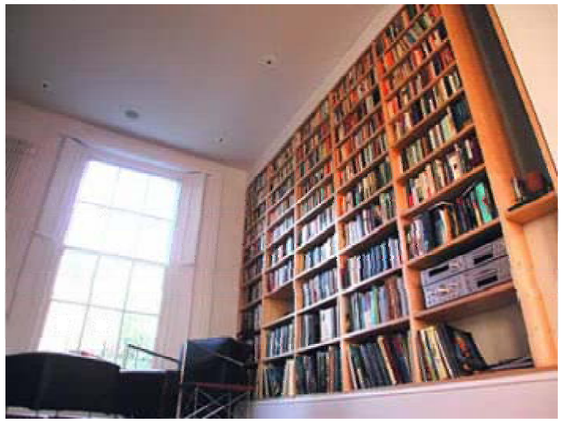

1階平面図

床面積：71.0 ㎡(21.5坪)

SC= 1:100

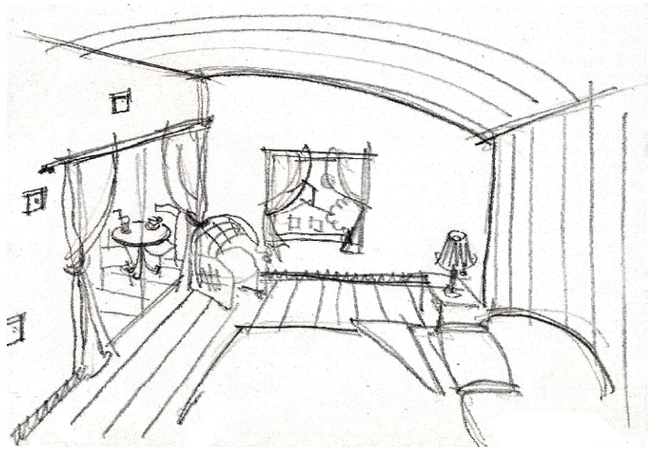
■書棚 & 収納

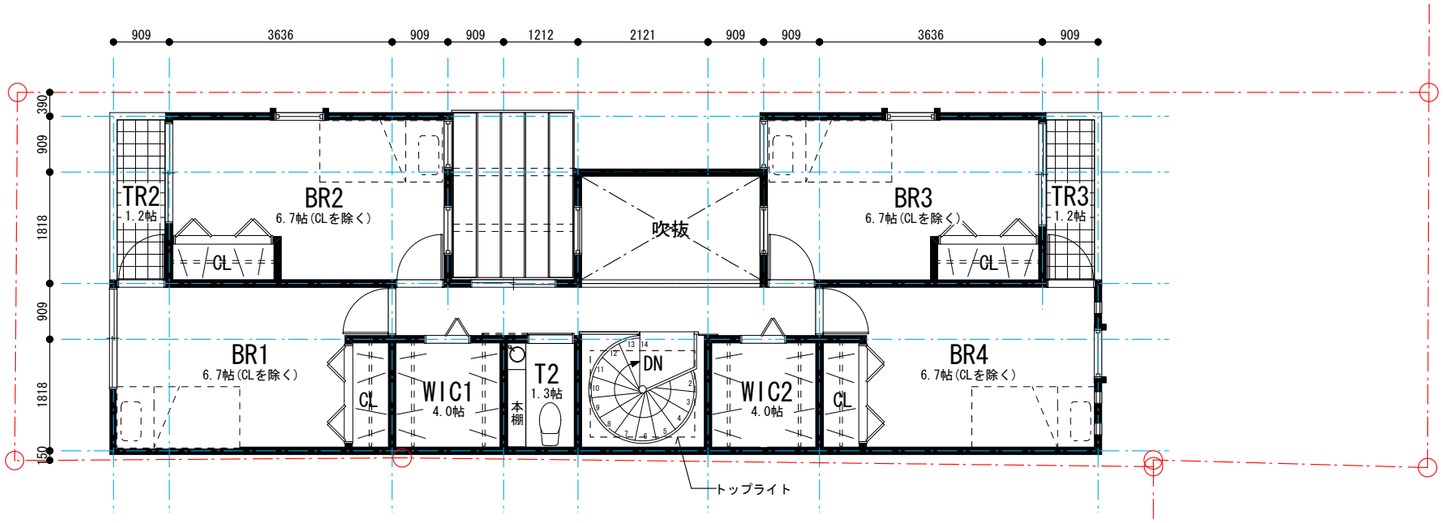
壁面一杯の書棚は、図鑑（30mm厚）で1,900冊以上の収納が可能です。同時に飾り棚や収納として機能しますので、玄関から廊下、ダイニングスペースまでの場所に応じて、収納物や飾りたいものを自由に配置できます。見せたくない部分には扉を付けるなどのアレンジもできます。



## ■寝室 & 個室

寝室は個室として捉えました。階段や吹き抜けを中心として建物のコーナー毎に４つ、バランスよく配置しています。どの部屋もバルコニー（一部共有）を持ち、外部に出られる構成です。各部屋にはクローゼットを設置するとともに、共有部分にもウォークインクローゼットを設け、衣類などの収納に配慮しています。





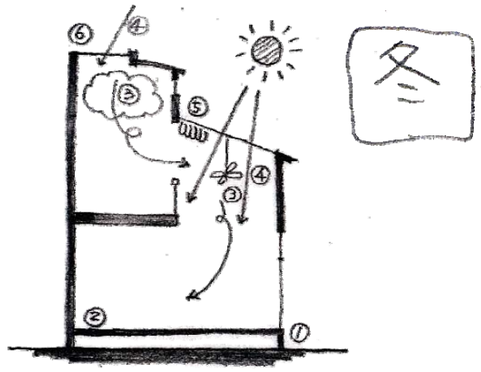

# 2階平面図

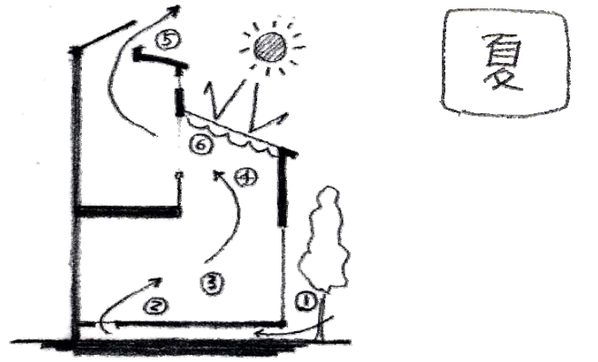
床面積：68.6 ㎡(20.8坪)

吹抜：5.4 ㎡(1.6坪)

SC= 1:100

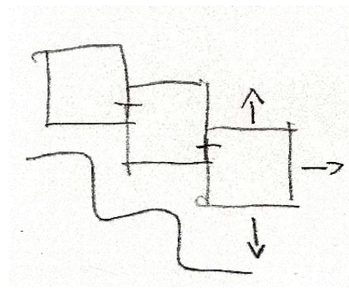
## ■パッシヴベンチレーションの考え方




## ■空間構成の概念

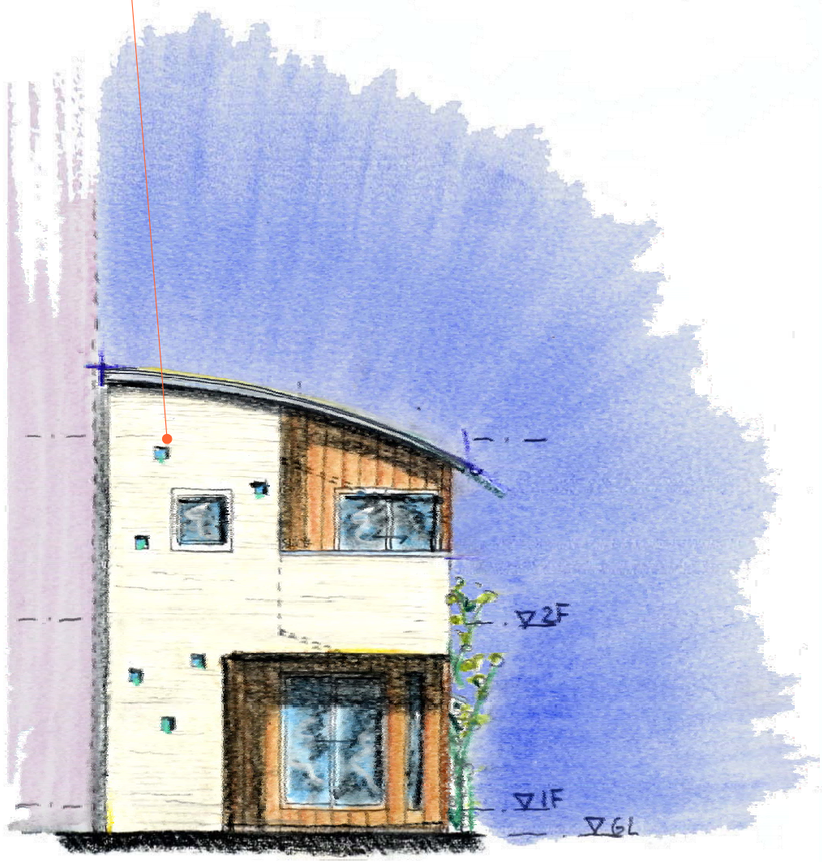
部屋の配置は日本の伝統建築形式より「書院造」のシステムを引用しています。図のように雁行しながら部屋を並べていくことによって、空間全体に変化がつき、様々なコーナースペースを生み出すことが可能です。またそれぞれの部屋が３面以上の採光面と眺望を得ることができます。



**ガラスブロック**
ガラスブロックの壁は、昼間は部屋の内部に光をもたらしてくれます。逆に、夜にはブロックを通じ明るい光が外へもれ、印象的な外観を演出してくれます。
点在させることでアクセントになり、壁の圧迫感をなくしてくれます。

**屋根**
屋根は建物に余分な重量を増やさないために、ガルバリウム鋼板でつくります。様々な向きの曲線の屋根が重なり、それぞれが太陽の光を浴びて輝き。印象的な外観となっています。

**自然な素材と色合い**
壁は、しっくいあるいは土壁調の素材を用い、廻りの環境にとけ込む、自然な色合いを実現します。




南立面図（正面）
SC= 1:100

東立面図
SC= 1:100

# アイデンティティ

eliminare le distanze, mantenere le differenze
(Michelangelo Pistoletto)

## 多様性

『個性』や『オリジナリティ』など、私たちは「人と違う」ということについて色んな言い方をします。「赤色」が「緑色」とは違うこと、氷が冷たくてコーヒーが温かいこと、太陽が明るくて雨にあたれば濡れること･･･

このように「違いがある」ことについては神様に感謝しなくてはいけませんね。おそらく皆さんも全てが灰色の世界、毎日が同じ事の繰り返し、全ての人が同じ顔の世界･･･で暮らしたいとは思わないでしょう！？

でも残念なことに、現在私たちの暮らす世界では「違い」という言葉　「悪い意味」でとらえられることがあります。「違うもの」は時に「理解しがたく」「危険」で、「異端」なんてとらえられることがあります。

つまり、「違うこと」は「修正すべき、減らすべき点」として見られるのです。

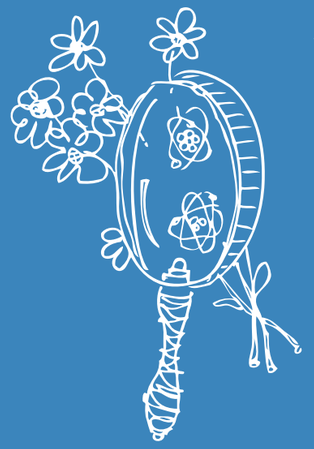
**こういった考えはおそらく、個々の人々が「自分に自信がない」ことや、「余裕がない」からこそ生じる考えなのではないでしょうか？**

**なぜなら、本来「違うという事」は多種多様なことで、バリエーションが豊かで、この世界において最も大切なこと、楽しむべきこと、守るべきことなのです･･･。**

**「違い」があるからこそ、私たちはなにかにチャレンジしようとするし、成長していくのだし、他の人の自分と違う意見も理解しよう･･･とするのです。**

**「違うこと」はすばらしいことですね。**

## 複雑性



今日“「強い個性」は、時として社会の動きを邪魔する”と考えられることがあります･･･

しかし、そうではありません！実際、これら（個性と社会）はお互いをサポートしあうことだってあります。自分の個性を磨いている人はきっといつか、まちに新しい考えを取り入れ、盛り上げてくれたり、パワーを与えてくれることでしょう。同時に、個性が感じられるようになったまちも、今度は人々の力となってくれたり、やる気を盛り立ててくれるはずです。

バランスの取れた自然界の環境は、異なった（複雑な）様々な要素がベースとなって成り立っています。例えば･･･原林が数え切れないたくさんの植物でなりたっていて･･･、たくさんの果物があり、それらは「それぞれの季節」に実って熟れる･･･そして、それぞれ動物をサポートする･･･さらにそれぞれの動物もまた果物を食すことで森のバランスを保つ手助けをしている･･･これぞ「食物連鎖」です。

「食物連鎖」はお互いの関係が複雑に絡み合いながらバランスが保たれたいい状態ですよね。

**このように「複雑なこと」は「たくさんあること＝豊か」である証拠だし、「柔軟」である証拠でもあります。**

**「複雑」であることが「難しい事」、「やっかいなこと」なんて考えている人は、**
**おそらく「自由」をも放棄してしまうことになります。**
**「同じ」であること「単純」であることがいい意味でとらえられる現代ですが、**
**社会や政治の世界での話をすると･･･これって、非常に「コントロールしやすい状況」を生み出している事になるんです。**

**「複雑」なほうが、複数の可能性を提示してくれて、お互いを補い合う事、バランス、知性、平和な関係に繋がるともいえるでしょう。**

## プロジェクトデータ

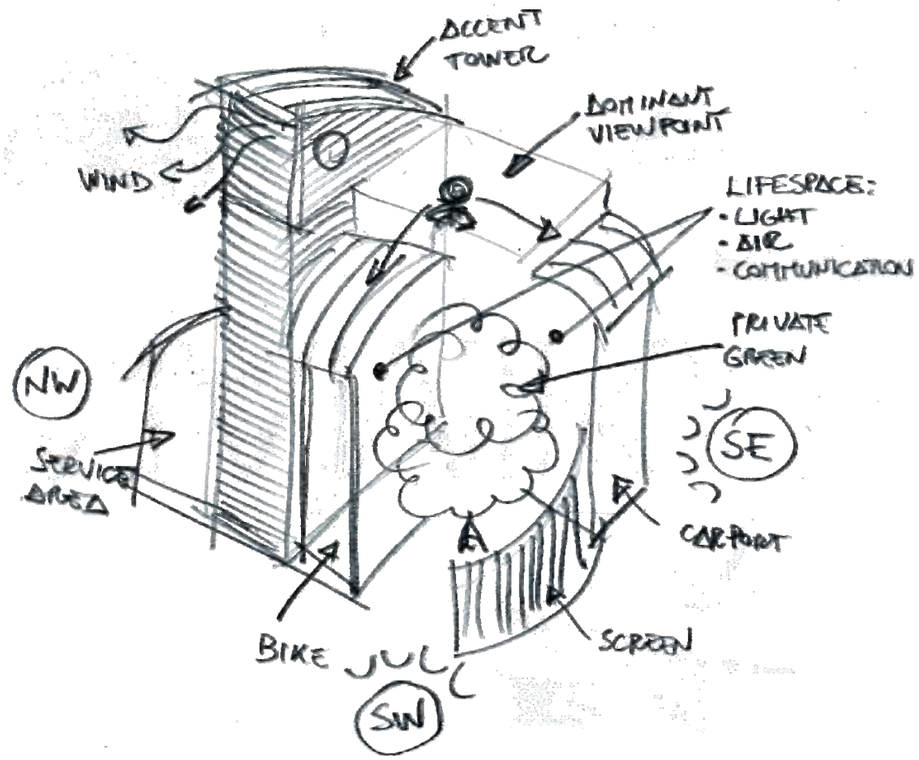
敷地面積：　142.1㎡（43.1坪）
建築面積：　 73.9㎡（22.4坪）＝52.0% ＜ 60.0%
延床面積：　181.4㎡（55.6坪）＝127.6% ＜ 200.0%
施工床面積：197.9㎡（60.0坪）
造規模：　地下RC+木造2F建て

# Art is the flower
# Life is the green leaf

Charles Rennie MacIntosh

生活を楽しむためには、私たちの心(精神)がバランスよく調和していることが必要です。
私たちは、充分に採光や自然換気がなされた、安全で健康な環境のなかで暮らせることを願っていますが、これは最小限の要求であって、それだけが満足できれば良いというものでもありません。
生活を楽しむために、私たちは魅力的な色、自然のテクスチャ、材質の違い、といった感覚やメンタリティを求めます。このような生活環境があることで、私たちはより一層、リラックスできることでしょう。
ときには、些細なディテールが非常に重要だと感じられることもあります。例えば、精巧につくられたアイアン装飾、例えば、カラフルなモザイクタイルを構成するガラスの玉、例えば、窓から外へ顔を出したゼラニウム．．．．．
これらの要素は、私たちの個性を高め、生活を豊かにしていく可能性をもっているのです。

日々の暮らしが「葉」だとすれば
心地よい刺激は「花」。
私たちの家は、樹木のようにそれらを携えて生きているのでしょう。




◆この家はカーブした屋根のラインで縁取られています。これらは高い建物の圧迫感をやわらげ、同時に奥行き感を作り出しています。パラペットやスクリーン(遮蔽壁)は、波打った輪郭が自然の要素とほどよく調和しています。

◆異なったボリューム(かたまり)があり、それぞれが異なった色を持っています。時間や季節の変化とともに、色のバランスも変化し、常に新鮮な印象を与えてくれます。

◆モザイクタイル、しっくい、むき出しの木、金属の屋根などがエクステリアを構成しています。

## キーワード

○ナチュラル（自然素材）
私たちは自然の素材の質感と色彩を大切に考えています。自然素材は、年を経るごとにその表情を豊かにしていきます。自然素材は、多くの緑・本当の自然とあいまって、様々なシチュエーションを豊かに演出してくれます。

○フレキシビリティ（柔軟性）
私たちは、将来の家族構成や生活スタイルの変化に対応できるフレキシビリティの高い住宅を提案します。プライベートスペースとパブリックスペースは、連続した空間により有機的につながります。住み手の生活スタイルの変化に対応して、柔軟に仕切り方を変えられるような空間をつくります。

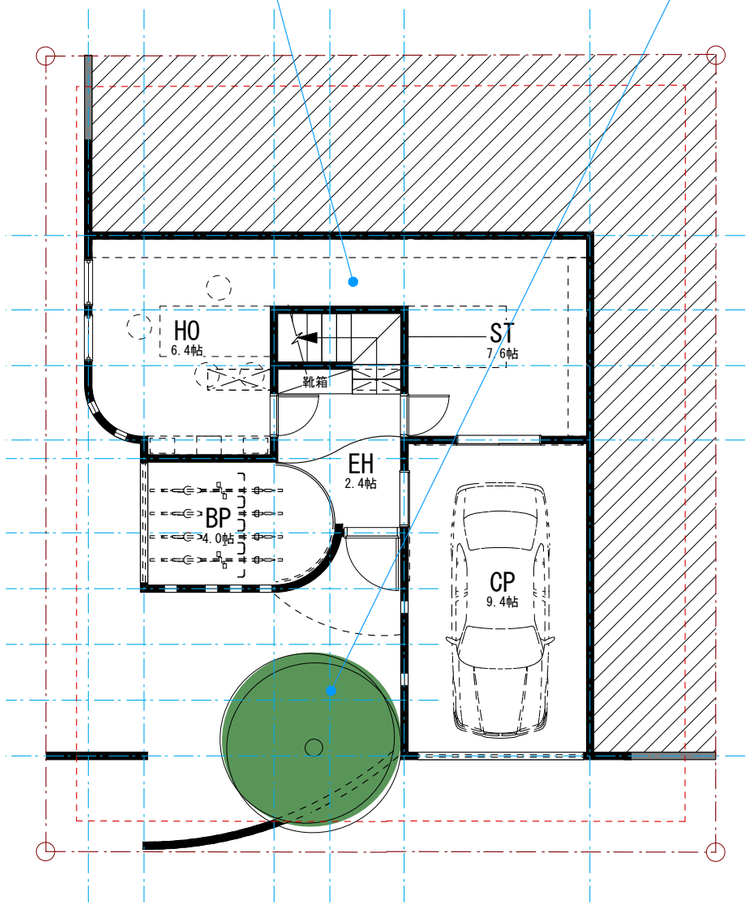
○アーバンコンフォート（都市的快適性）
前庭は、メンテナンスの容易な玉石舗装で仕上げるなど、都市的な快適性を追求することも忘れてはなりません。限られた土地で豊かに暮らすために、住宅の屋上やテラスといった外部空間の緑化を考えます。植物たちにとっても、太陽に近いテラスで育つことが適切であるのは言うまでもありません。

■**ワークエリア**
ホームオフィス/スタディルームには、大きなデスク（テーブル）と壁に面して大きなオーディオラックがあります。天井にはリビングに通じる吹き抜けを設け、空気や音のつながりを持たせています。書棚スペースは必要に応じてストレージに拡張できます。ストレージ（倉庫）は、ガレージに直接つながり、修理など簡単な作業のためのアトリエとしても使うことができます。

■**アプローチ庭**
柔らかな自然光がやさしい雰囲気を与えます。外からの視線を気にすることが無い外部空間は、私的なくつろぎを演出してくれます。自然現象をいつも身近に感じられることで、生活に潤いをもたせます。スクリーン（遮蔽壁）は、特別にセラミック（ランダムなタイルモザイク）で覆い、個性的で象徴的なオブジェにしています。

■**リビング**
家の「ハート」であり、あらゆる場所をつなぐコミュニケーションエリアということができます。緑の庭に面し、日の光を存分に受け止め、大きな吹き抜けにより空気の通り道にもなっています。リビングはダイニングにつながるとともに、外の景色にも面しています。

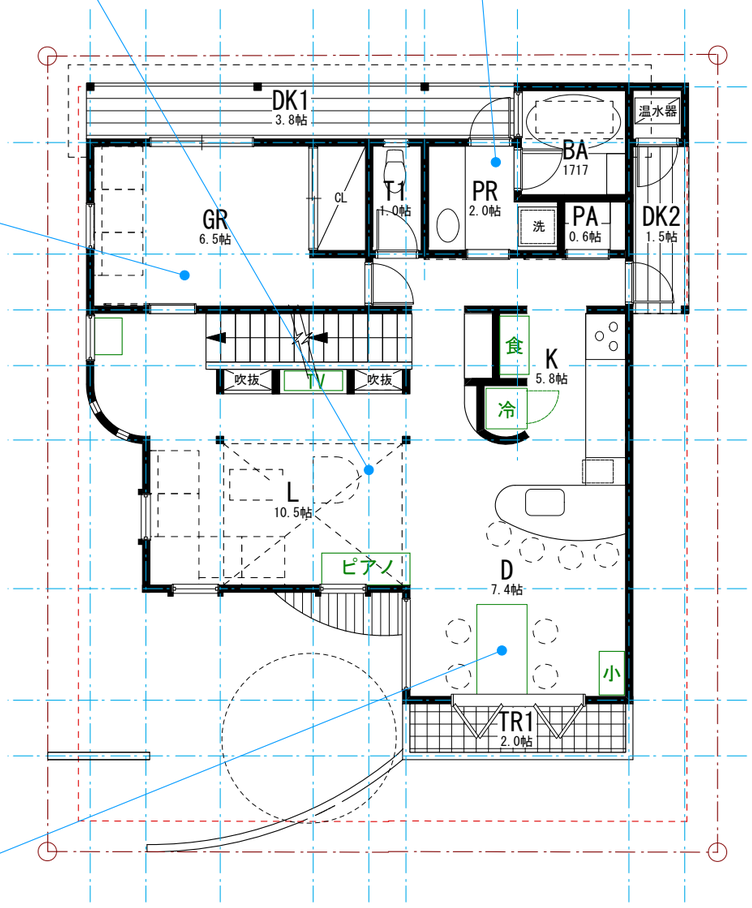
■**水周り**
家の中では離れたコーナーに位置しているにも関わらず、中心的な機能を持っています。寝室フロアからはリビングエリアを横切ることなく、ここに降りてくることができます。同様に、ゲストルームやキッチンにも近く、家事もスムーズにはかどります。




## 地下階平面図
床面積：51.8 ㎡(15.7坪)　　SC= 1:100

■**ゲストルーム**
1階にあるゲストルームは、リビングエリアとサービスエリアの両方に接続し、ゲストにとって使いやすい部屋となります。将来的には、和室にも変更が可能で後ろの収納スペースは床の間に変えることもできます。

■**ダイニング**
形成されたＬＤＫ空間は、機能的に分離しながらも互いが空間的につながっています。
ダイニングは、フルオープンの窓・ドアによって、小さなテラスに向かって開かれています。手すりの所までテーブルを移動させれば、緑に囲まれた感覚を味わうこともできます。



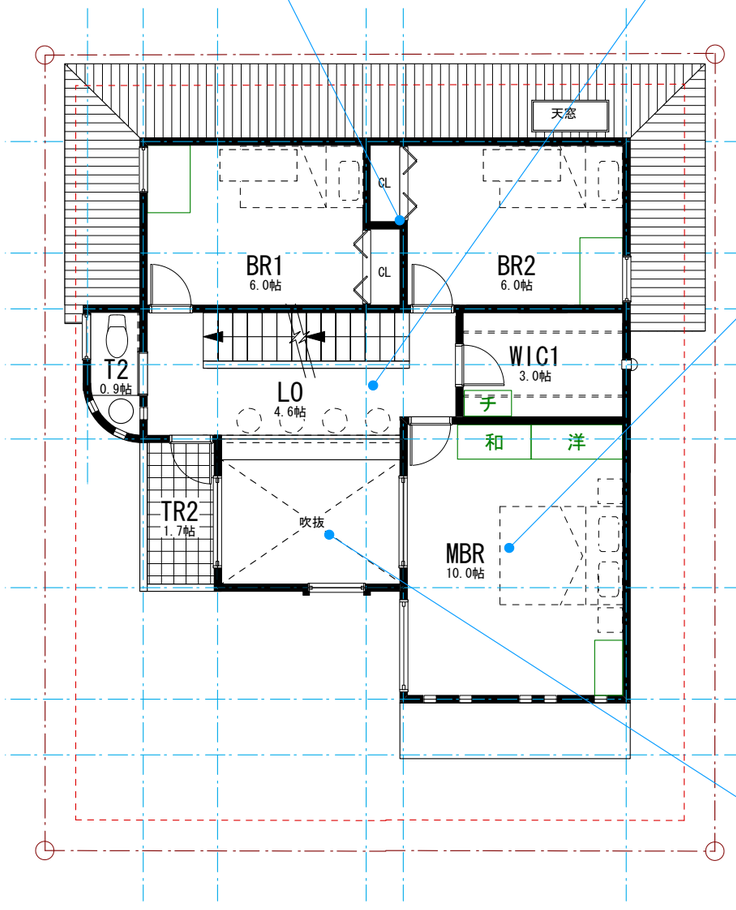

## 1階平面図
床面積：70.6 ㎡(21.4坪)　　SC= 1:100

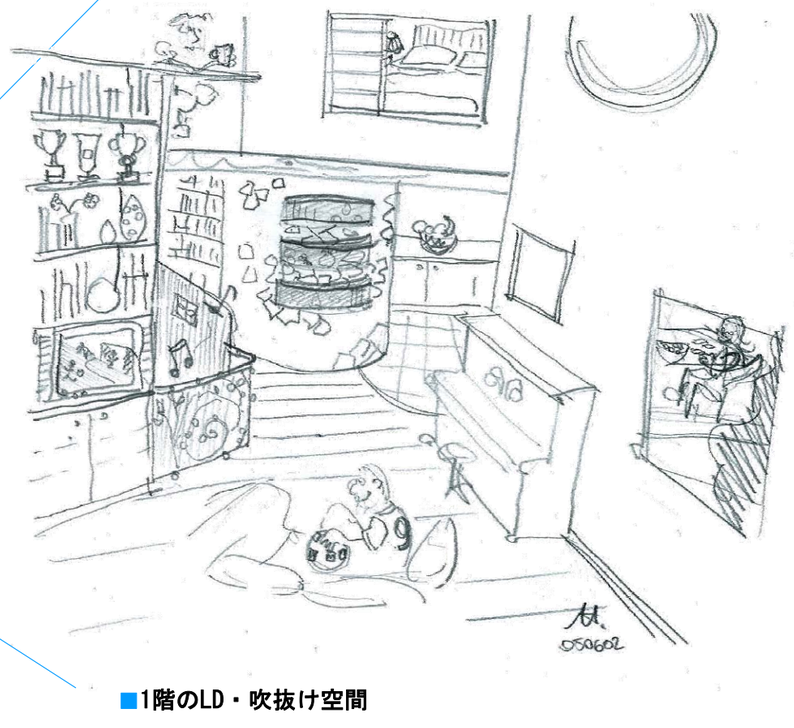
**■ベッドルーム**
ナイトエリアはとてもコンパクトです。プライバシーは確保されつつも、同時にとてもオープンな空間です。子供の部屋は通りから離れていて、北側に面した大きな天窓からは日中を通じて安定した光を得ることができます。

**■ロフト**
広いカウンターがリビングの上部にせり出し、アクセントとなっています。吹き抜けは印象的な丸窓からの光を受けますが、西側にある低い窓から差し込む光もドラマチックです。

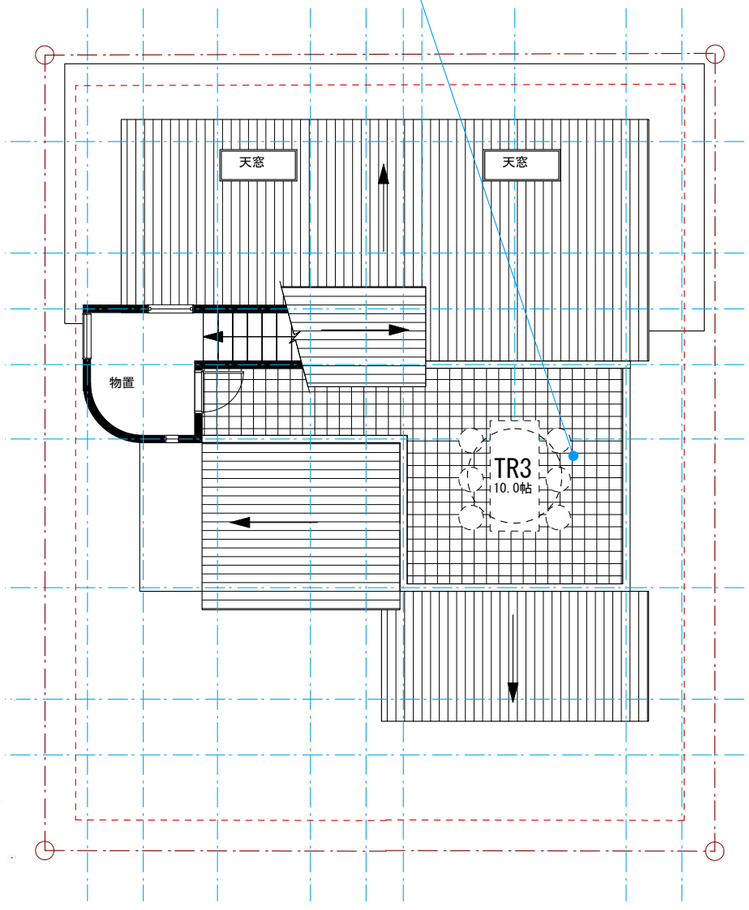
**■主寝室**
広々として明るい空間です。南側の壁は、ランダムに配置されたガラスブロックのパターンを通して柔らかい光が感じられます。２つの大きな窓は、緑の庭とリビングとにそれぞれ面しています。

**■オープンテラス**
周囲から高くなった２階に設けられたテラスは、そこに立つ人を特別な存在に感じさせてくれます。
ここはプライベートなパーティには充分な広さを持っています。
各方向に流れるようにカーブした屋根を見下ろす景観が、この位置をより高く感じさせています。



■1階のLD・吹抜け空間




## 2階平面図
床面積：55.4 ㎡(16.8坪)
吹抜　：7.4 ㎡(2.2坪)
SC= 1:100

## 屋上平面図
床面積：3.6 ㎡ (1.1坪)
SC= 1:100

西立面図

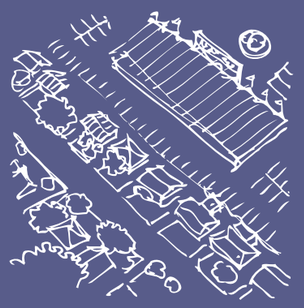
SC= 1:100

南立面図（正面）

SC= 1:100

# コンパクトシティーの文化

Mens sana in corpore sano
(Decimus Iunius Iuvenalis)



本来、人間は群れをなして生活する動物です。人類の歴史が始まってから現在まで、どの国のどの時代を見ても人間はグループか社会を形成して暮らしてきました。

そんな長い歴史の中で、技術の発展と同様に「まち」も発展してきました。人が集まれば様々な「仕事」を専門的分野として分担することが出来るし、そのほうがおそらく能率も上がり、技術も発展するでしょう。

そのためには、人はお互いに親しい関係、信頼できる関係でないといけません。

さもなければ、全ての人が専門的すぎて、一人ではなにもできなくなってくるからです。

他人と情報やサービス、物を交換するためにも、「密」に交流する必要が出てくるのです。そしてこれらの交流は市場の中で行われることがほとんどでしたし、まちの中心部に市場があったというのはとても深い意味があるんですね。

今日でも昔と変わらず、「まち」は、基本的には人々の交流する場所として意味をなすものなんですね。

しかし、第二次世界大戦後、世界中に「儲けのためになんでもあり」の土地の売買が広まり、この結果、不自然なまちのあり方が流行してしまいます。

…いわゆる「郊外」のトレンドです。

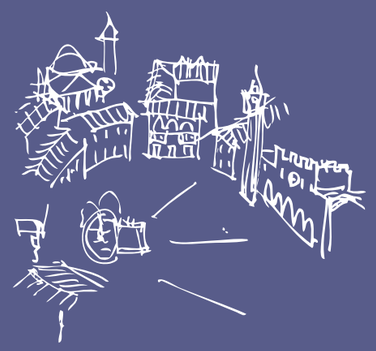
英国庭園などを模倣し、それを口実にしたりして流行したこの「郊外トレンド」は車、テレビ、電話の発達を利用してどんどん広がって行きました。

「郊外にあるまち」は、まち本来の発展の仕方とは異なり、人の交流する場としての意味をなしていません。

このまちのあり方は人にとっても、環境にとっても、悪い部分を促進してしまいますし、精神的にも暮らしている人にいい影響を与えません。時には全力でとめなくてはいけない「癌の要素」ともなりうるのです。

**「まち」は我々人間のライフスタイルを形成してくれます。まちは私たち人間が生活していくのに、ごくごく自然な場所なのです。**

**「まち＝人口的なもの・不自然な物」なんていう偏見を持つのはやめて、「まち」に愛着をもちましょう。**



# 地元

donne e buoi dei paesi tuoi (?...!)

スローフードの一つの譲れないポイントは「風土」です。（言葉の遊びはわざとではないですが・・・）

地元の食べ物はもちろん新鮮です。運送は不要ですので、コスト的にも安く、エコですよ。

地元の食べ物は自然と気候に合って、体にいいです。ずっと昔から使われていた食材ですので、調理方法も優れています。

建物にも同じことが言えます。

瓦の産地の近くでしたら、屋根を瓦葺きに決めてください。

季候に会いますし、歴史のある産地では職人は自信とノウハウがあって、絶対得意ですよ。良い仕事ができますし、しかも安い。

建材も同じく、湿気の多い地区では湿気に強い地元の木を使うのは常識でしょう。

運送費用もかからないので地元の産業を応援をしながら得もします。

全ての建材は地元は地元産でなければならないでしょうか。

しかし、理科、物理学でも、どの決まりでも例外があるというのです。

**フレキシブルに対応しましょう。**

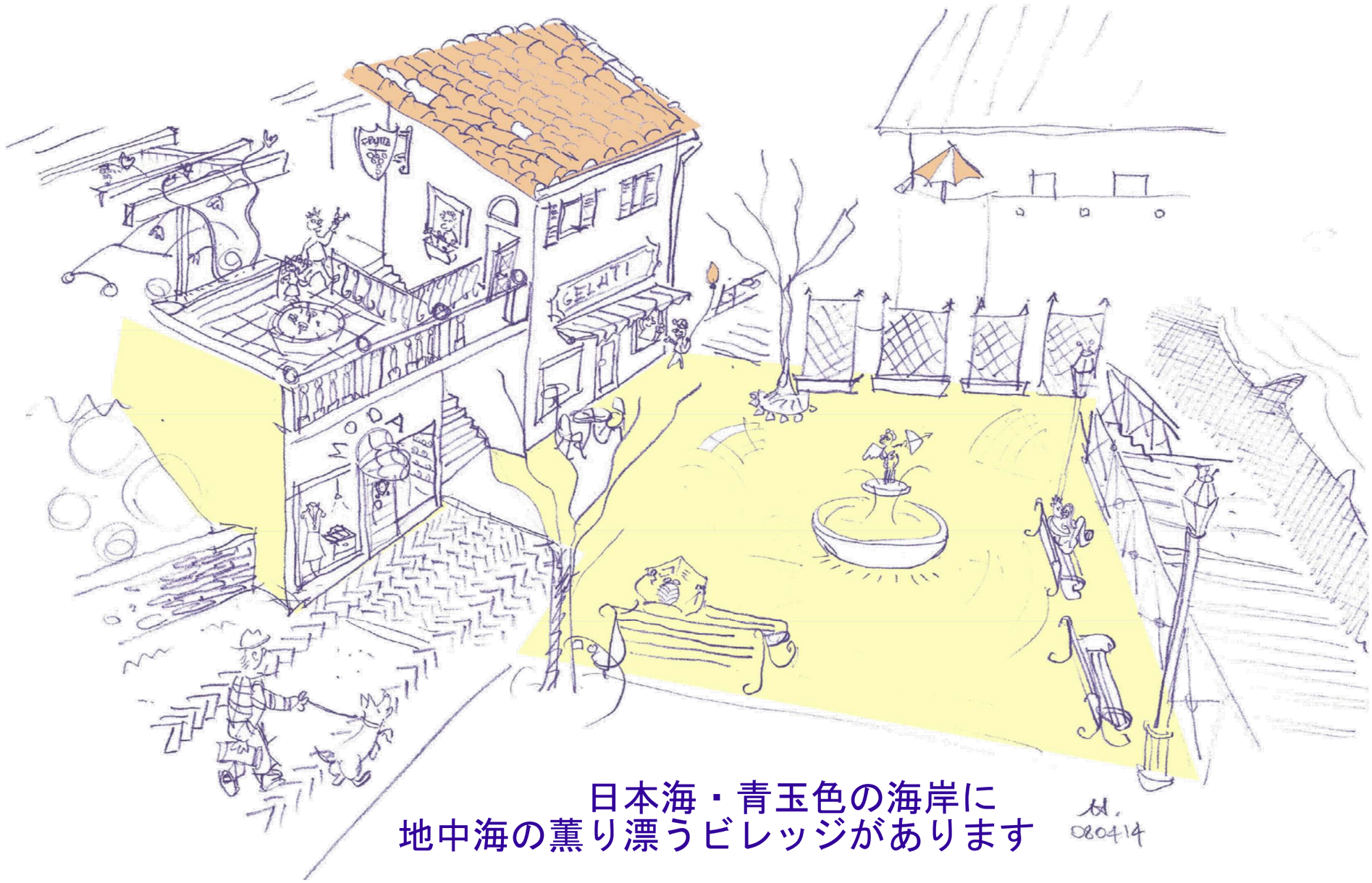
**どんな美味しい地元の食べ物にもスパイスを使わなければつまらないではないでしょうか。**

**昔は運搬が難しかったため当然地元の食べ物、建材を多く使用しましたが、やはり一部は輸入物でした。大切にしながら、遠い国へ行って、地元にない貴重な材料を使ってました。マルコポーロを思い出してみてください。**

**現在でも 95% 地元の材料、5%こだわりの輸入物を使って建物を建ててみませんか。**

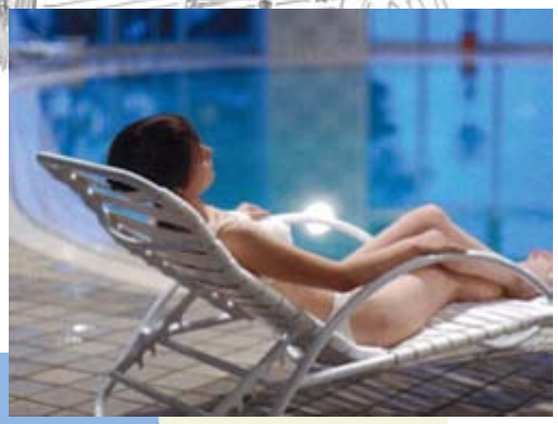
# odamadai

Amano-hashidate　　青玉台




日本海・青玉色の海岸に
地中海の薫り漂うビレッジがあります

どうして別送？　どうして天橋立？



Slow life - リラックス、エネルギー

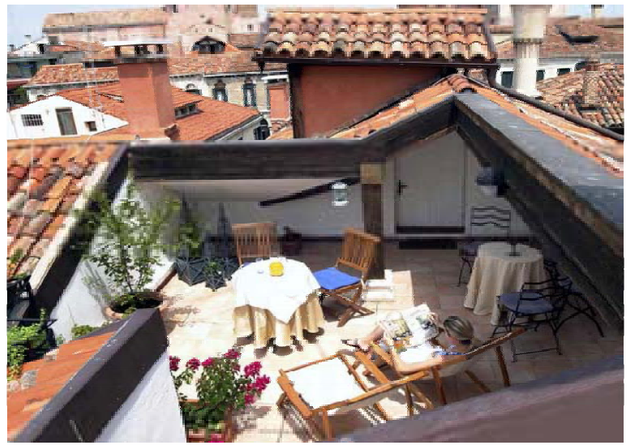
Family - 家族との時間

Happiness - 明るいまちなみ

View - 雄大な景色とひととき

## Resort lifestyle

イタリアでは、１００年前まで、海は「漁師の仕事場」として合理的な役割イメージが強く、遊び場としての感覚は全くありませんでした。
ところが、1900年初頭には、TBC病を患ったイギリス人やドイツ人が、静養目的で地中海の海岸で数ヶ月を過ごすようになりました。彼らは、マイナスイオンに富んだ綺麗な空気を吸い、新鮮な食事を採って、身体のみだけでなく、精神面にも回復していったのです。
イタリア人もまた、恵まれた自然が溢れる、心地良い海沿い集落の美しさを再認識し、習慣的に、暑い夏を海辺で過ごすようになりました。
戦後になって、海辺の別荘を持つというのは決して「上流層」のみのステータスではなくなりました。年配のご夫婦が、投資目的で退職金で別荘を購入するようになり、それは世代を超えた家族集合の理由付けとなると共に、彼ら自身の健康維持とも繋がるという効率的な形がよくあるようになりました



Party - 友達、お知り合いとのプライベートパーティー

Walk - まちなみを楽しむ

Investment - 効率的な投資

Status - ステータスの向上

# ケーススタディー：イタリアの名所別荘地・天橋立の背景

## ■カプリ島（カンパーニャ州）

**歴史**

かつてはローマ皇帝の避暑地として使われており、１９世紀後半に、CAPRIはヨーロッパの芸術家や、作家、その他セレブに人気のリゾート地となりました。１９５０年代には富裕な人々のお気に入りの目的地となり、今ではイタリアや外国の旅行者に人気の行き先となっています。

**特徴**

伝統的な建物と雰囲気のある曲がり角、豪華なブティック、息を呑む景色の特別感のある融合をもって、カプリは忘れられない体験を与えてくれます。PIAZZETTA（野菜や魚の市場が出る地元の生活の中心地）は、今や旅行者にとっても地元の人たちにとっても、カプリ島の中心となっています。カプリに来た人は、細い小道を抜けなければならないのですが、この小道は、地元の人々が昼食やただ単におしゃべりする為に立ち寄る様々なバーのテーブルが並べられています。そして、おそらく客を日光から守る為に置かれたと思われる傘のおかげで多少のプライバシーは保証されています。ここのPIAZZETTAは、小さく簡素で、囲われていて、中庭に似ています。この有名なPIAZZETTAは、島の主要な町への入口であると同時に、開放的な社交場への入口でもあります。カプリは、お酒を飲んだり、すばらしい光景を楽しんだりと、思い出に残る場所です。また、豊かな人も貧しい人も、セレブも漁師も、PIAZZETTAを行き交い、まさに世界の客間といえます。

**成功の要因**

・自然環境と伝統を尊重した建築

・自然の景観と、文化的・社会的活動の融合

・町の社会生活の支柱としての「PIAZZETTA」の存在

## ■ポルトフィーノ（リグーリア州）

**歴史**

ローマ人によって創設され、PORTUS DELPHINI（いるかの港）と名付けられた小さな漁村です。１９世紀に、旅行の目的地としてイギリス人やその他北ヨーロッパの貴族の旅行者によって発見されました。１９５０年より観光が漁業に取って代わり、町の主要な産業となっています。

**特徴**

町の小さな港の賑わいは、ここが地中海で最も美しい港の一つであることを思わせます。ポルトフィーノまではくねくねした道が続き、町の中には車が入れないようになっています。映画「DOLCE VITA」のスタイルが町の中心にあるブティックの中に、レストランやバーは有名なPIAZZETTAに見られます。ポルトフィーノのPIAZZETTAは、思いがけない人々と会えるかもしれないSALOTTO（客間）のような空間です。この開放的な空間は、独特で不思議な魅力に満ち溢れています。少し歩けば、パステルカラーの通りの中に家と並んで、連なる世界的に有名なブランド直営店を見ることが出来ます。また、マリーナにある豪華なヨットの横を歩けば、地元の漁師が昔を思いながら網を修理している姿が見られます。

**成功要因**

・自然環境と伝統を尊重した建築

・自然の景観と、文化的・社会的活動の融合

・町の社会生活の支柱としての「PIAZZETTA」の存在

## ■ポルト　チェルボ（サルデーニャ州）

**歴史**

１９６０年代初期に、スイス在住のアラビアの王子によって、未開のサルデーニャ島北東の海岸に沿って始められたリゾート開発の中心地の港町です。地元の特性を生かした建築が得意なデザイナー３人が何も無いところからこの町を開発し、マリーナ、ホテル、集合住宅、ヴィラを建設しました。

**特徴**

ポルト　チェルボは「地中海らしい」別荘地で、ジェット機で世界中を飛び回る富裕な階級に特に愛されています。港には世界の大金持ち達の大きくて優雅な最新ヨットが停泊しており、ショッピングや観光のスポットとして注目されています。しかしそれと同時に、海や陽気な生活を楽しもうとやってくる観光客や家族にも人気で、その生活は、店舗やバー、レストランを備えたPIAZZETTA（小さな広場）を中心として展開されています。

建築は、この地方特有のデザイン要素（質素な形状、むだのない大きさ、アーチ、路地や曲がり角を見下ろすバルコニーやテラス）と、材料（乾燥した石の壁、パステルカラーの表面）のおかげで、環境と見事に融合しています。村全体が樹木の新鮮な香りに包まれており、巨大な御影石でできた門柱や庭の彫刻、ローズマリーやラベンダーの生垣、パステルカラーの壁が特徴です。そして、ミモザやセイヨウキョウチクトウ、小さなシュロの木が、これらに影を作っています。このデザイン法式の大きな成功は、ポルト　チェルボを模倣した街並みが世界中に見られることからも覗えます。

**成功要因**

・新しい建物と自然環境との調和
・自然の景観とレジャー活動の融合
・町の社会生活の中心地としての「PIAZZETTA」の存在

## ■マリントピアリゾート天橋立（京都府）

**歴史**

細川氏と京極氏が築いた歴史のまち宮津は、江戸時代以降発展し、現代も多くの重要な建築物が残されています。この歴史的な土地において、1980年代にマリントピアリゾートの開発が始まり、2007年までにリゾートマンション10棟が建設されました。そして今、一番新しい「10号館」前の戸建住宅用地で、地中海をイメージさせる青玉台の提案をさせていただきます。

**特徴**

大阪市内から約１時間40分という立地で、都市部からも、気軽に週末を過ごすために訪れる人が多い別荘地です。若狭湾・宮津湾の輝く波、雄大な山並み、美しい海岸線などが織りなす自然の変化に満ちた絶景を、高台という理想的な地形から眺望できる、リゾートにふさわしいロケーションに恵まれています。

当案は、都市部でのせわしない日常から離れて、緑に囲まれてヒューマンスケールに戻ることのできる生活に憧れてやって来る夫婦や家族に向けたプランです。

地中海を連想させる明るいまちなみは、中心にPIAZZETTA（小さな広場）があり、そこには、こじんまりとした居心地の良いカフェや、アイスクリームショップ、ブティックや便利なコンビニなどが立ち並んでいます。広場のベンチに腰掛けてのんびりと読書に耽るのも楽しい時間です。若狭湾の絶景を目の前に、車の進入のない、彩りと薫り溢れる雰囲気のある小道を、パートナーや愛犬と一緒に散策してみると、きっと新しい発見があります。

**成功するための要因**

・自然環境と伝統を尊重した建築
・自然の景観と、文化的・社会的活動の融合
・町の社会生活の支柱としての「PIAZZETTA」の存在

ーマンスケールな街・デザインコンセプト

Lungo mare - レッセ市の海辺プロムナード

Vista panoramica - テラスからの絶景に囲まれると気持ちも豊かになります

## 見る

Vista - 雄大な眺め

## Passeggiata （プロムナード）

忙しい毎日の中、人は車の世界のスピードに合わせて暮らしています。

「慌しい人生を送るためにそんなに頑張らないといけないのでしょうか？」

海辺の別荘でこそ、週末だけでも車を忘れませんか。

自然もたっぷりと満喫したいけれど、どこか懐かしく心地良い町並みも味わいたい。

大切な人と手を繋いで散策したり、愛犬と一緒に散歩しながら運動をしましょう。

美しい景観に囲まれた、健康的な町並みの中で、人生の魅力を再発見してください。

## 味わう

Scoperta - 新しい発見

## 落ち着く

## 感じる

Arco - 古代には、虹や空からのインスピレーションで、空間の表情を柔らかくする「アーチ」が生まれたのでは？

Stradina - 涼しく心地良い小路

Piazzetta - チンクエテーレ・マナローラ市の静かなメイン広間

# Harmony・・・

## ○自然と人のハーモニー

・敷地外に共用カーポートを設ける→各住宅の庭のより広い確保が可能。ひとときでも車の存在を忘れましょう。

・車両進入禁止のペデストリアンのネットワークで歩く（リラックスして健康のために、ペットの散歩など）

・ピアッツェッタ（小広場、ビレッジ広場）でショッピングや読書を楽しむ

・緑に囲まれた気持ち良い空間

## ○周囲環境との調和を図る

・白い（クリーム色、薄いパステル調の色を含む）壁と赤い屋根のデザイン

・山の段の住宅は平屋あるいは平屋+ロフトで最高高さ4.5mまで

・海の段は2階立て住宅でも可能です。

## ○建物と街のハーモニー

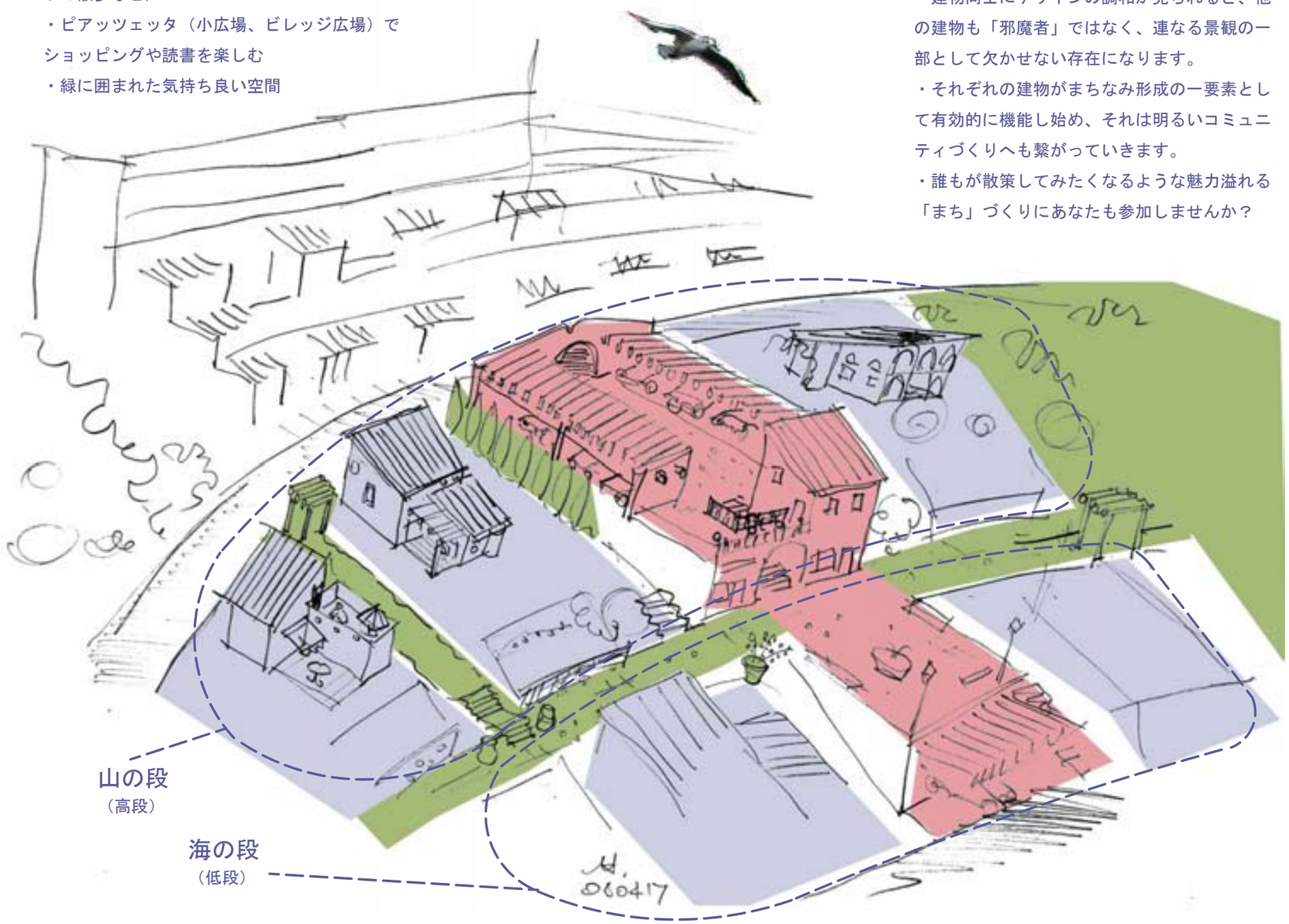
ディズニーランド、USJ、ハウステンボスなどのテーマパークでは、なぜ巡り歩きをしたくなるのでしょうか。

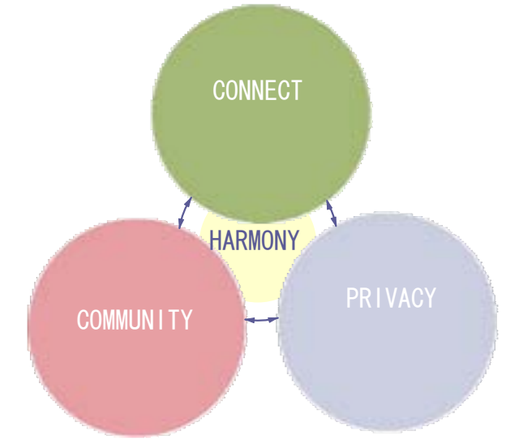
・「車両の進入がないから」というのが大きな理由の一つではないでしょうか。

・建物同士にデザインの調和が見られると、他の建物も「邪魔者」ではなく、連なる景観の一部として欠かせない存在になります。

・それぞれの建物がまちなみ形成の一要素として有効的に機能し始め、それは明るいコミュニティづくりへも繋がっていきます。

・誰もが散策してみたくなるような魅力溢れる「まち」づくりにあなたも参加しませんか？




●**緑化でエコビレッジを目指す**
→エレメント：パーゴラ、石たたみ、素焼きの壺、ハーブ

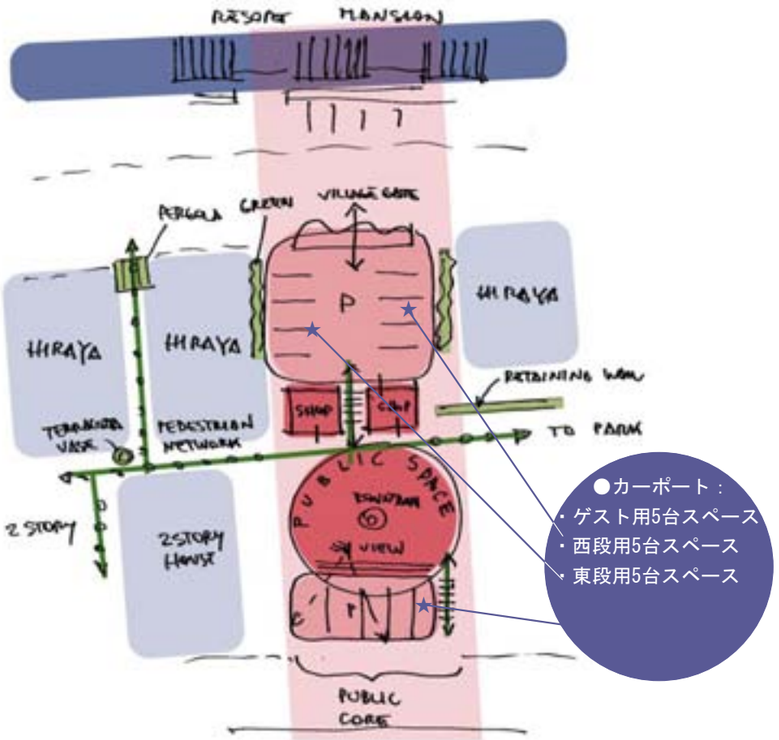
●**共有部分はヒューマンスケールで**
→エレメント：カーポート、ショッピング、広場

●**住宅で景観あるまちなみづくり**
→エレメント：外壁の色、方流れ屋根、小窓、曲面の

8 9 参照

8 9 参照

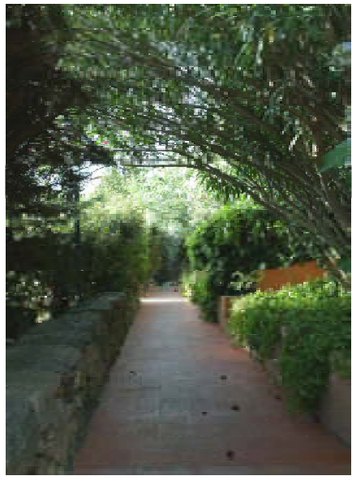
10 11 12 参照



# ■散歩道のエレメント

## パーゴラ

このエレメントには複数の役割があります。
・リンクエレメント:共有部分とプライベートスペース、また屋内と屋外を、境界を設けずに緩やかに繋げながら、空間に広がりをもたらします。
・デザインの統一:全体プランの中で、繰り返し使うことにより、統一性を生み出します。違う高さや様々な角度での組合せにより、さらに特長が出るエレメントで、空間調和を取るのに役立ちます。
・フィルター：広葉植物を使えば、夏は日差しを柔らかく遮断し、冬場には葉が落ちるのでパーゴラの上には雪が積もらず安全です。生垣、塀と同様に目隠しの機能がありますが、風や光を優しく通してくれます。



## 散歩道

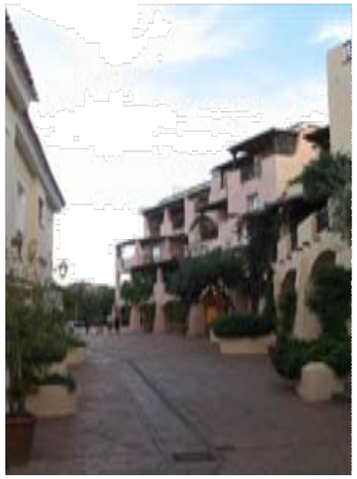
ネットワークを作ることにより、多様なコース設定が可能となります
・床材を使い分けて、面白いリズム感を出します。
・プランターや素焼きの壷を置いて、個性的な空間を作ります。
・低い石塀や生垣を目隠しとして使い、プライバシーを守ります。
・フェンスや高い塀は使用しません。
・メンテナンスの簡単なラベンダーやローズマリーなどのハーブの生垣で、色と薫りを楽しみましょう。

## 抜け道

建物と建物の間に1.5m幅の小路があります。階段を利用して、敷地の高低さを乗り越えます。
・建物の壁面後退部分に収まります。
・両側に生垣を植えますので、プライバシーが2倍になります。小路　があることで、生垣のメンテナンスも容易になります。
・海に向かう印象的な「窓」が生まれます。

## ショッピング

こじんまりとした、こだわりのあるお店にご興味はありませんか？
お家から徒歩1分以内で気軽に買い物ができるところがあれば嬉しいことでしょう。実用面で便利なことはもちろん、ちょっとした時間潰しもお洒落に過ごせます。
・ピアッツェッタ沿いにカフェ/アイスクリームショップを計画しています。
・その隣には洋服/雑貨のお店を予定。
・カーポートと同じレベルには食品/コンビニエンスストアがあります。



## 小広場（ピアッツェッタ）

ウィークエンドハウスこそ、ヒューマンスケールであるべきです。
・メインストリートは車両進入禁止
・噴水、外灯、ベンチのある空間では、まるで別世界にいるかのような気分に浸れます。水の音を聴きながら会話や読書、音楽などをゆったりとお楽しみください。
・ペットとお散歩中の休憩場所としてもご利用ください。
・ピアッツェッタのショップに加えて、住宅にもサロンや展示スペース、小さいイベントスペースなどがあれば、街全体がさらに生き生きとします。

## 専用駐車スペース

Aodama-daiで愛車を大切に似ながら、心地よいペデストリアンの間隔を楽しめます。
宅地の持ち主にありがたいプリビレジュがついてきます。
ゲートが開くと日影でカーポートがあり、カメラで24時間監視中。
・最大カーポートから玄関前で最大20m
・敷地内に車を置けないので、土地の間口をフールで利用できます。
・お庭、外部デッキなど友好的に使えます。
・東面段の宅地は敷地内に車を置かなければ、要壁、土木工事を避けられます。

■パーゴラ

■石張りの塀

■ハーブガーデン



■石畳

section Y1-Y1

■散歩道

■焼き物の壷

■ベルベデーレ
（パノラマポイント）

■買い物広場

緑化・コネクション部分のイメージ　（平面図）

scale1:500

# まちなみづくりガイドライン

イタリア、Porto Cervo

**ルール**：環境を守り、付加価値の高い皆に有益なまちなみづくりを目指して、シンプルなルールを考えました。
十人十色ですので、それぞれの建物の間取り、材料、形は自由に決めていただきます。
しかし、まちなみ全体のコーディネート（統一）を図るために、マイナーなディテールを随所で繰り返し使うこととします。
皆様のご協力により、オリジナリティーの豊かさを保ちながら、調和の取れたまちなみができあがっていきます。

## ■カラーパレット：白桃のように、ソフトで明るく暖かい。

### 瓦
H:9R~10R
V:5~8
C:6~8

H:1YR~2YR
V:7
C:6~10

### 外壁
H:5Y~1Y
V:9
C:1~3

H:10YR~1YR
V:9
C:1~4

**壁**：基本は塗り壁。オフホワイト~薄いピンク、明るいクリーム色。なるべくグレーのニュアンス色や濃い色を避ける。植栽の緑、青玉のような海と空との組み合わせで特長が出る色合いです

**屋根**：素焼き瓦の屋根を葺きます。濃淡の表情を持つ材料を使うと圧迫感のない屋根が作れます。黒い色の吹付けてある瓦は避けましょう。

**木部**：ヒバ、ひのき、杉、サーモウッドを楽しみましょう。木の種類や色は多ければ多いほど味わいも増します。イペ材などはグレーにならないようにメンテナンスをしましょう。

**外構床**：磁器質タイル、テラコッタタイル、レンガ、石畳、洗い出し・・・バラエティに富んだ材料を使って個性的なまちなみづくりを目指しましょう。色は赤、黄色、白、黒で揃えて、グレートーンの部分はできるだけ少なくしましょう

## ■エレメント

### 曲面の壁
**箇所**：１箇所以上、　**サイズ**：R910mm以・1/4円以上
各戸のファサードには円形シャフトを設けます。シャフトはそれぞれの住宅により、あるいは使う場所により、玄関であったり、バルコニーであったり、吹き抜けや出窓にもなります。らせん階段であってもいいでしょう。違う作りの家でも、同じエレメントが揃っていれば、自然と統一感のあるまちなみができあがります。２ｘ４、在来工法でも簡単に対応できます。

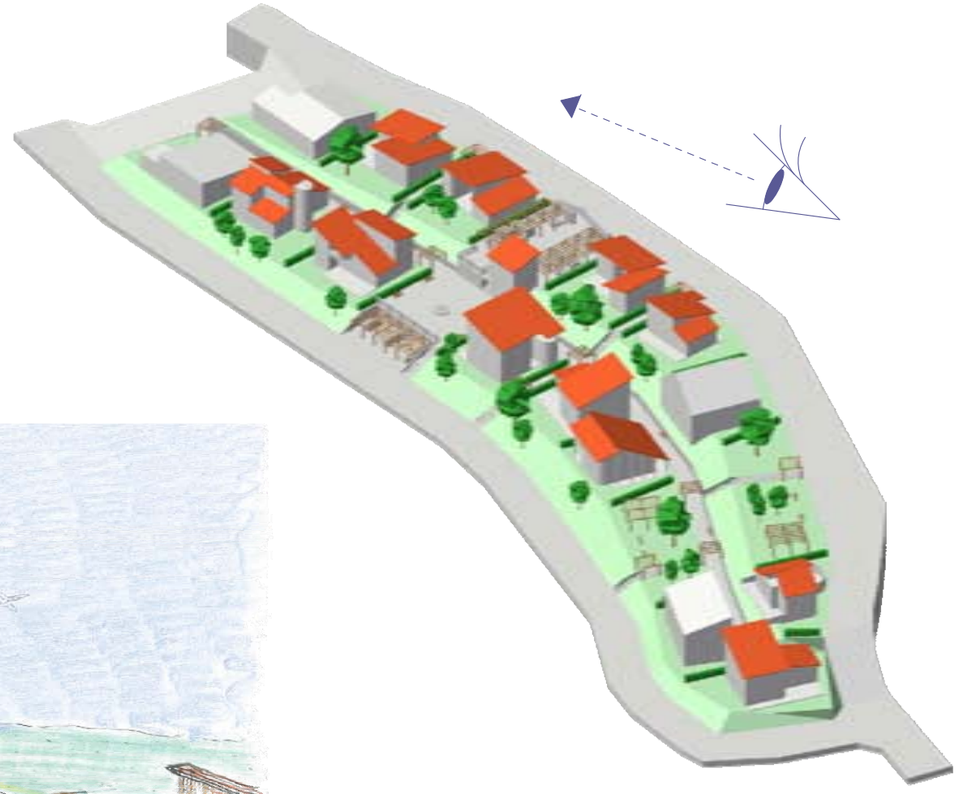
### ガラスブロック
一面総張りよりも、アクセント使いをしましょう。
（単品使いでも、連続でも、ランダムでもOK）
**箇所**：5個以上
**サイズ**：200mm各±10%
**色**：水色、グリーン、ターコイズ、フロストホワイト

### 方流れ屋根
棟があるかないでイメージが全く違ってきます。
片面勾配の屋根を組み合わせると、視覚的に動きが出て、屋根材の仕上げも優れて見えます。また、遠方から見ると、建物間の境界が曖昧になることで、自然と集落が生まれていきます。
**勾配**：20°（発砲ウレタン張り）~35°
**仕上げ材**：洋瓦または屋緑化が好ましい
**色**：赤、茶、黄色、ピンク、芝色（緑化の場合）

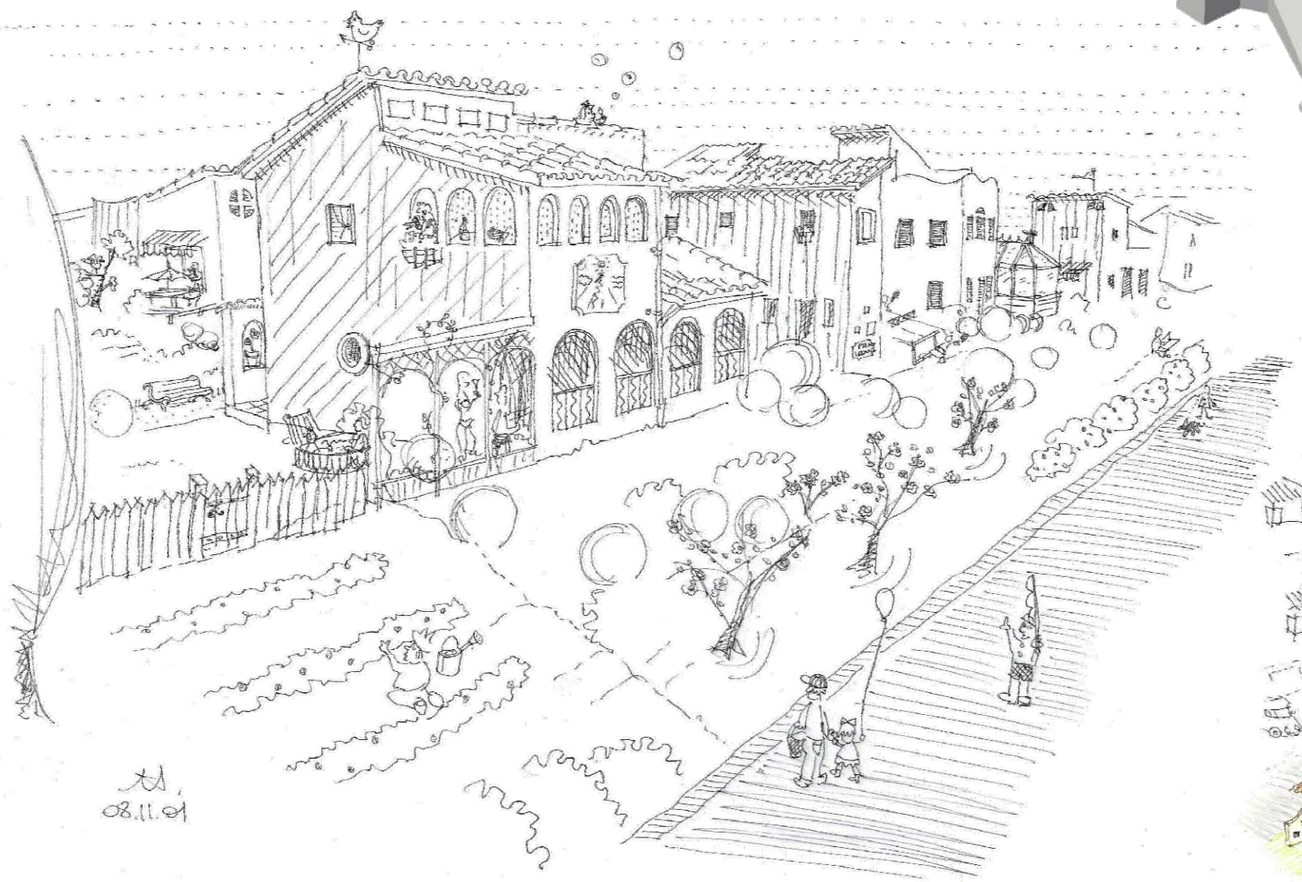
### 小窓
上記と同じ理由で、サイズは違っても、プロポーションの揃った窓は、統一感あるまちなみづくりのための大切な要素です。
この計画における基本の形状は、**縦勝ち**の片開き・上げ下げ窓とします。
**円窓、アーチ窓**：１箇所以上
**引き違い窓**：1箇所以下（吐き出し窓無制限）

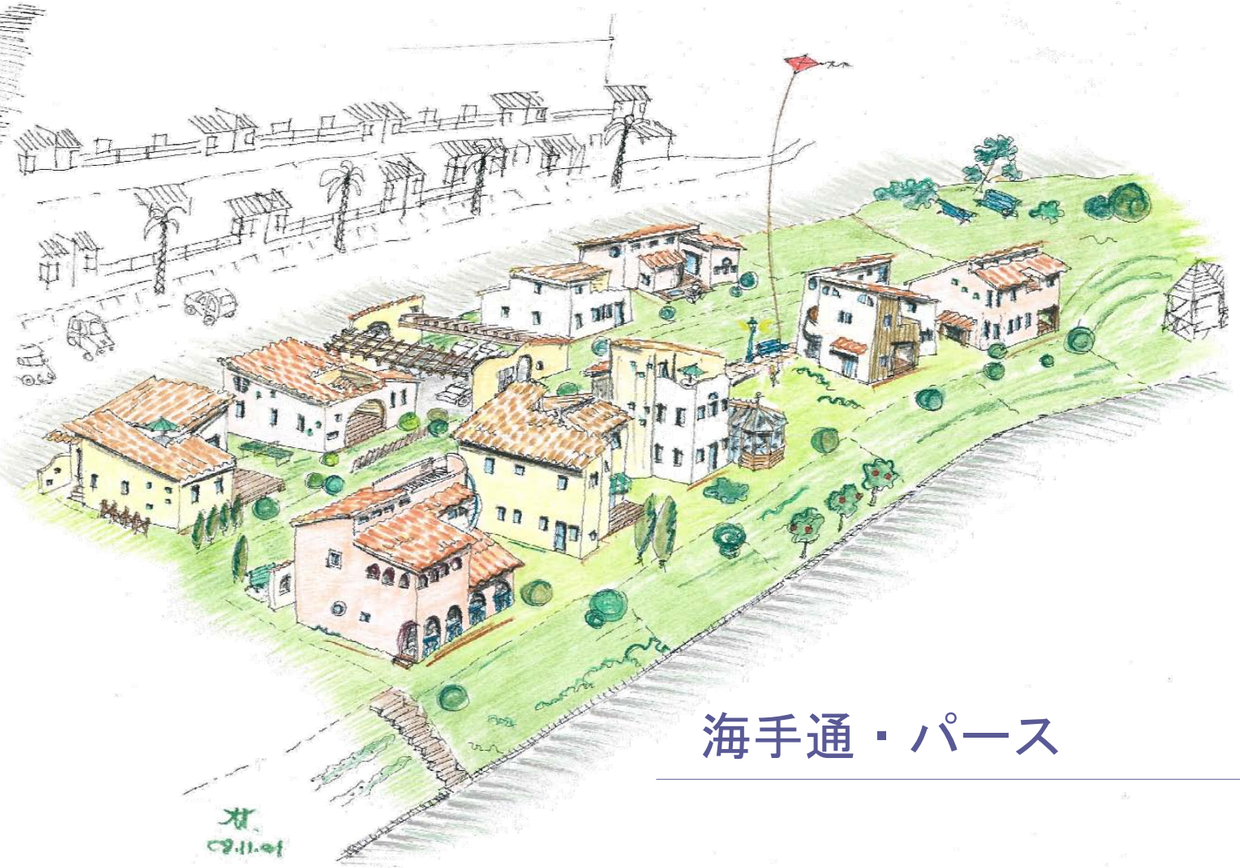
まちなみ・カラーコーディネート　（配置図・立面図）

scale1:500



## 山手通・パース





## 海手通・パース

■ **ゆっくり寝たい人の家**（床面積25坪）
**平屋**のL字型のプランで、ゆったりした間取りです。道路側に玄関、ウォークインクロゼット、ゲストルーム。広いデッキに面して南向きに寝室、お風呂、LDKがあります。目覚めてすぐに、寝室から直接デッキに出ることができます。のんびりと美味しいブランチを召し上がってください。

■ **風呂好きの人の家**（床面積20坪）
**平屋**でコの字型でアレンジしました。寝室とイートインキッチンはセパレートです。リビングの上は高天井で、一部ロフトがあります。ここでは、家族や友人が、隠れ家的な感覚で気軽に一晩宿泊できます。中庭型のデッキからは、直接お風呂に入れますので、露天風呂のように使ってください。

詳細 15

★**買い物広場**
（20㎡×3店舗）

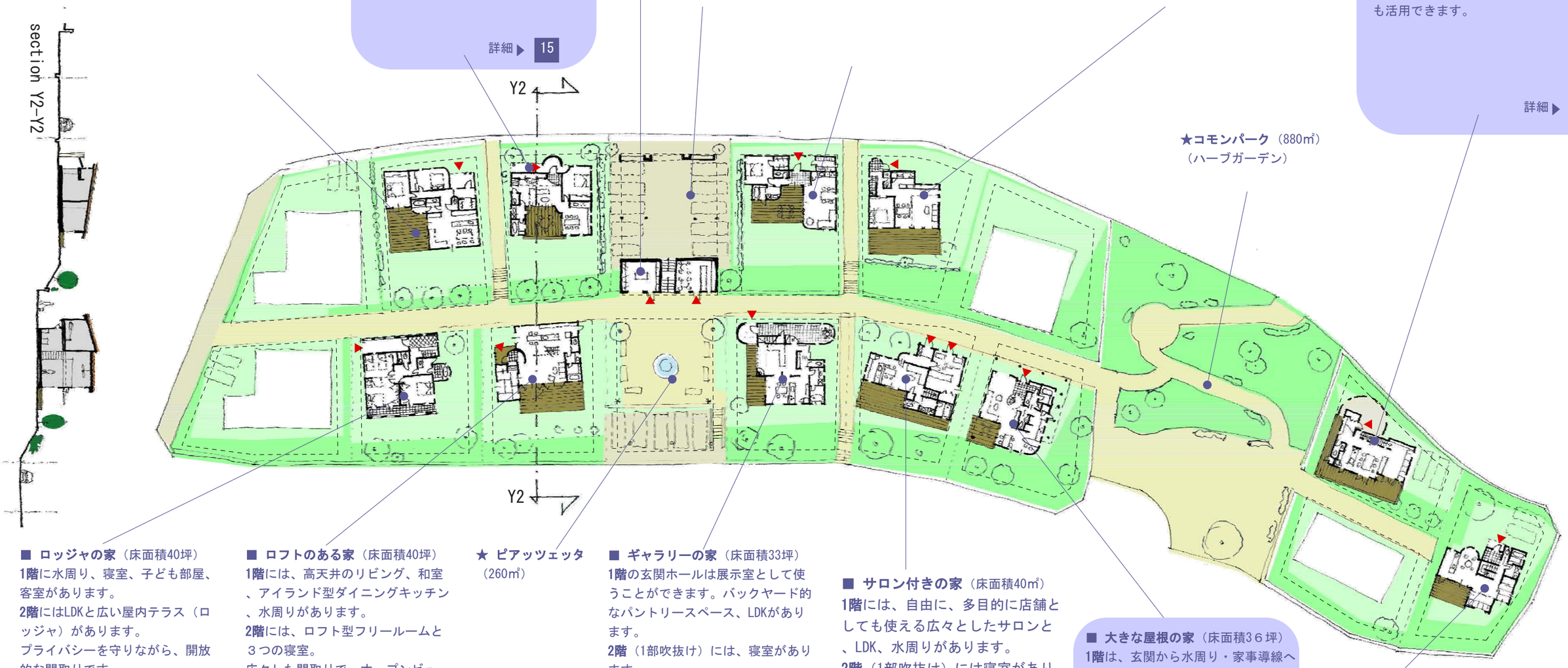
★**カーポート**
（220㎡）

■ **魚釣りの家**（床面積20坪）
**平屋**の形状。玄関横に、釣道具の収納庫があるので、備付シンクで採れ立ての魚を洗って、隣接のキッチンに持ち込めます。玄関ドアを開けた瞬間に目の前に現れるのは広いデッキ。デッキを挟んだ両側に寝室と広いLDがあり、シンプルなI形キッチンは、必要に応じて全面パーテーションで目隠しすることもできます。

■ **仲良し夫婦の家**（床面積22坪）
**1階**にはコンパクトな寝室、高天井のLD、対面キッチンがあります。
**2階**（一部吹抜け）は、洗面・パノラミックな浴室があります。違う部屋にいても、いつも声が届くような間取りになっています。

■ **パーティーの家**（床面積36坪）
**半地下**にプライバシーの高い寝室、ホテルルームのような寝室２部屋があります。
**1階**には、LDがあり、稼動棚でアイランドキッチンと間仕切りできます。各空間が、広い南向きテラスと隣接しており、様々なパターンでパーティーができます。
**2階**（1部吹抜け）は、水周りと中庭型のプライベートテラスがありますので、プールパーティー、バーベキューパーティーに2階も活用できます。

詳細 16




★**コモンパーク**（880㎡）
（ハーブガーデン）

■ **ロッジャの家**（床面積40坪）
**1階**に水周り、寝室、子ども部屋、客室があります。
**2階**にはLDKと広い屋内テラス（ロッジャ）があります。
プライバシーを守りながら、開放的な間取りです。

■ **ロフトのある家**（床面積40坪）
**1階**には、高天井のリビング、和室、アイランド型ダイニングキッチン、水周りがあります。
**2階**には、ロフト型フリールームと３つの寝室。
広々した間取りで、オープンビューを満喫できます。

★ **ピアッツェッタ**
（260㎡）

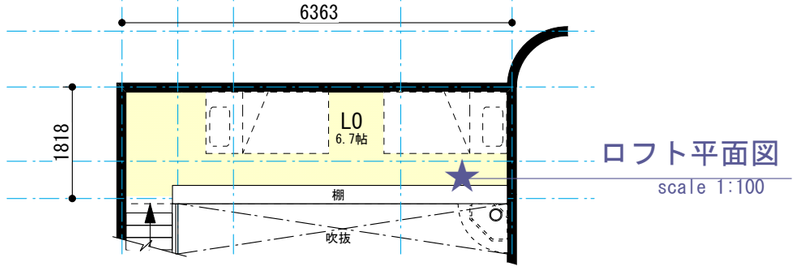
■ **ギャラリーの家**（床面積33坪）
**1階**の玄関ホールは展示室として使うことができます。バックヤード的なパントリースペース、LDKがあります。
**2階**（1部吹抜け）には、寝室があります。

■ **サロン付きの家**（床面積40㎡）
**1階**には、自由に、多目的に店舗としても使える広々としたサロンと、LDK、水周りがあります。
**2階**（1部吹抜け）には寝室があります。

■ **大きな屋根の家**（床面積３６坪）
**1階**は、玄関から水周り・家事導線へアクセス可能な間取りです。リビングとDKに隣接した屋根付きデッキもあります。**2階**には、寝室２部屋、フリースペース、ウォークインクローゼットがあります。

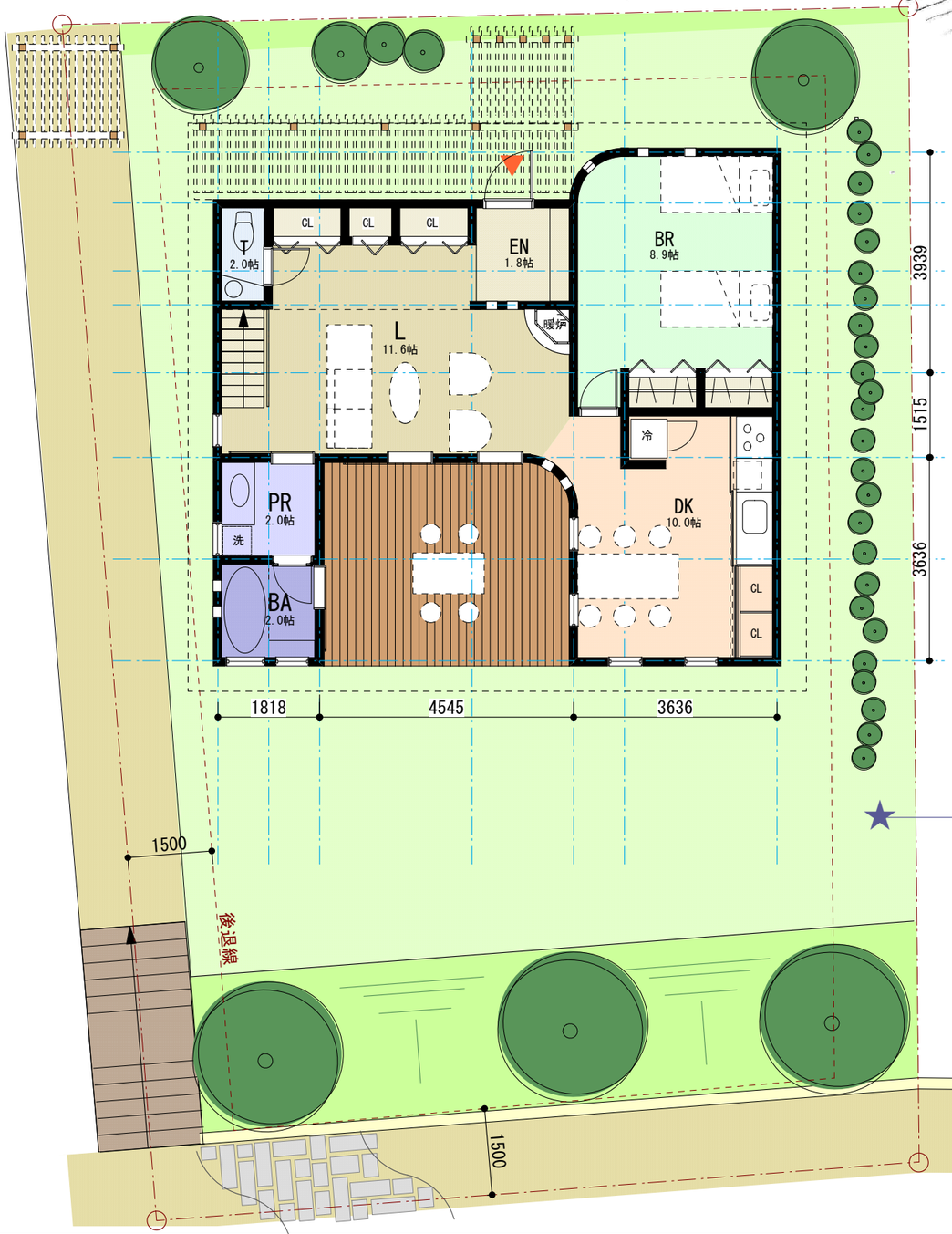
詳細 17

■ **蔵の家**（床面積45㎡）
**地下**室は納戸としてお使いください。都市のお住まいで、片付けておきたいものは、ここで大切に収納できます。**1階**は、水周り、和室、一部吹抜けのリビングがあります。デッキを挟んで、明るいDKもあります。**2階**（1部吹抜け）には寝室があります。




ロフト平面図

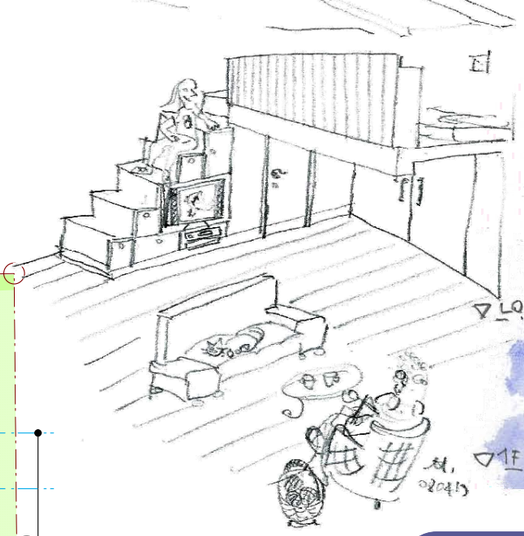
scale 1:100




N

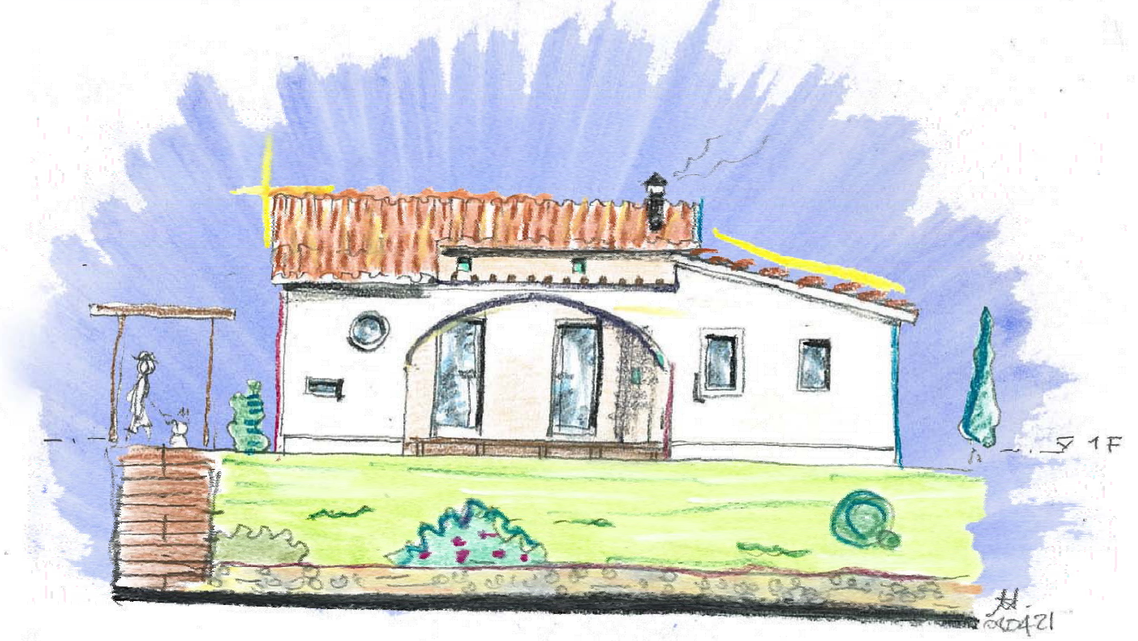
1階平面図

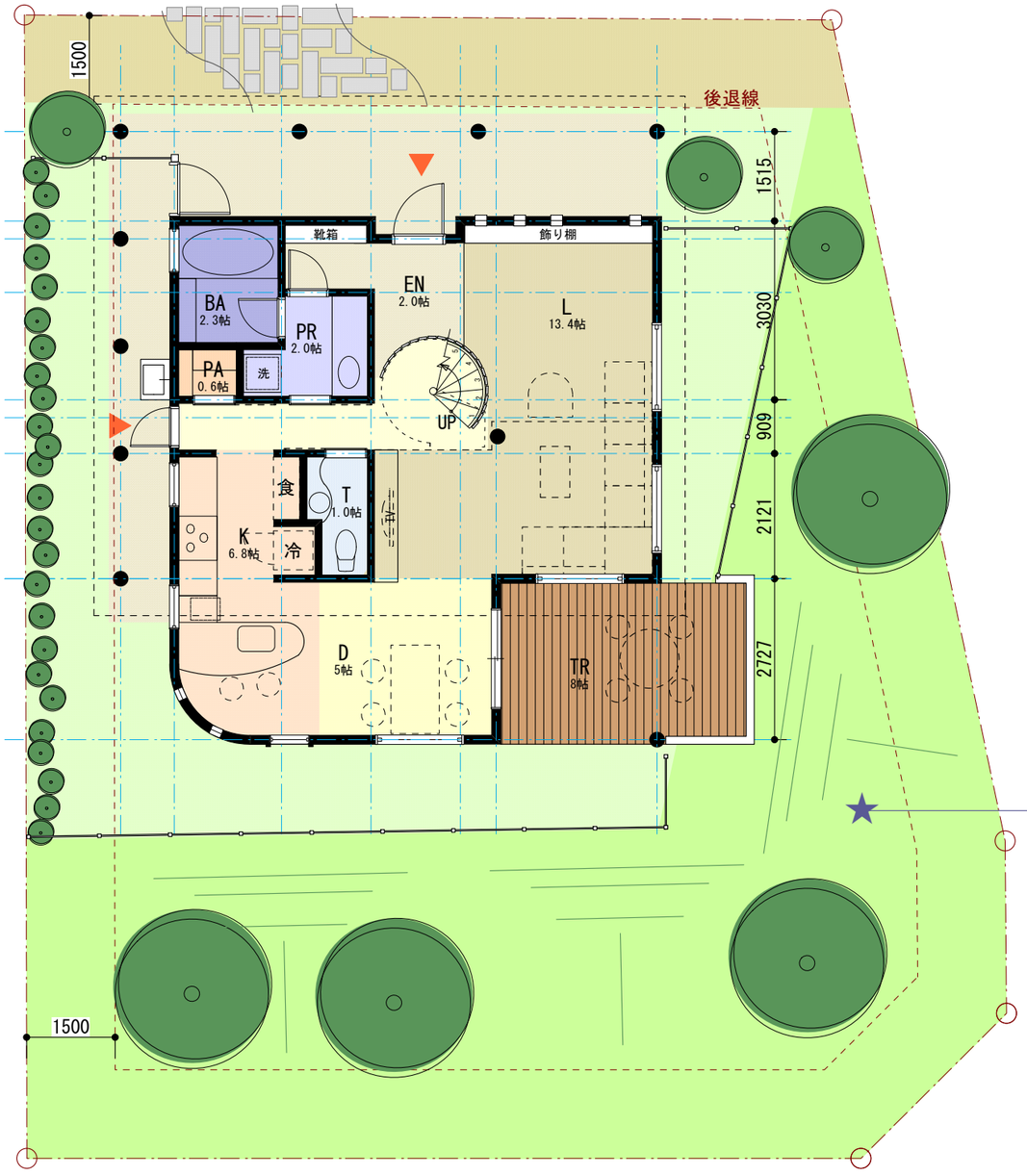
scale 1:100



## 風呂好きの人の家

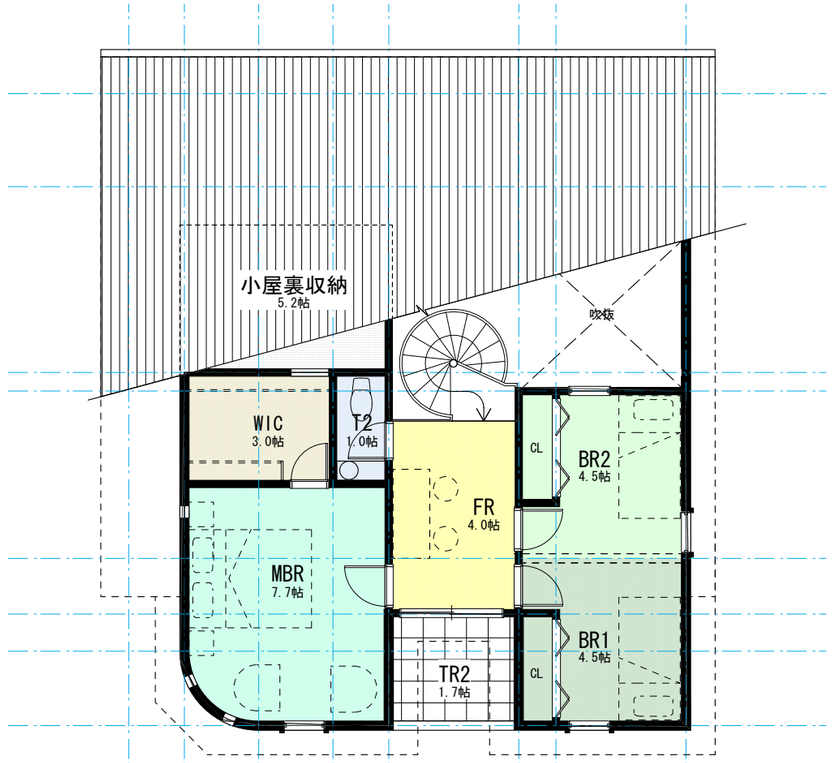
カーポートに隣接する山の段の敷地です。こちらの段では、平屋のプランのみとなります。全体的にこじんまりとしていますが、壁面収納スペースを最大限に確保しました。リビングの壁面収納部分の上は、居心地の良いロフトになっており、上部へは収納式の箱階段でアクセスします。箱階段には、コンパクトにテレビを収めるスペースもあります。また、リビングのコーナーには、温かみのある暖炉が設置されています。庭とデッキに面するお風呂では、シャワーを浴びながら立った目線では高位置の丸窓から、浴槽に入った状態では低位置の角窓から、それぞれ眺望を楽しむことができます。もちろん、外部からの目線が届かないように、また外観のデザイン性も考慮した上で、各窓は目線レベルに、大き過ぎない適当なサイズで配置しています。






1階平面図

scale 1:100




N

2階平面図

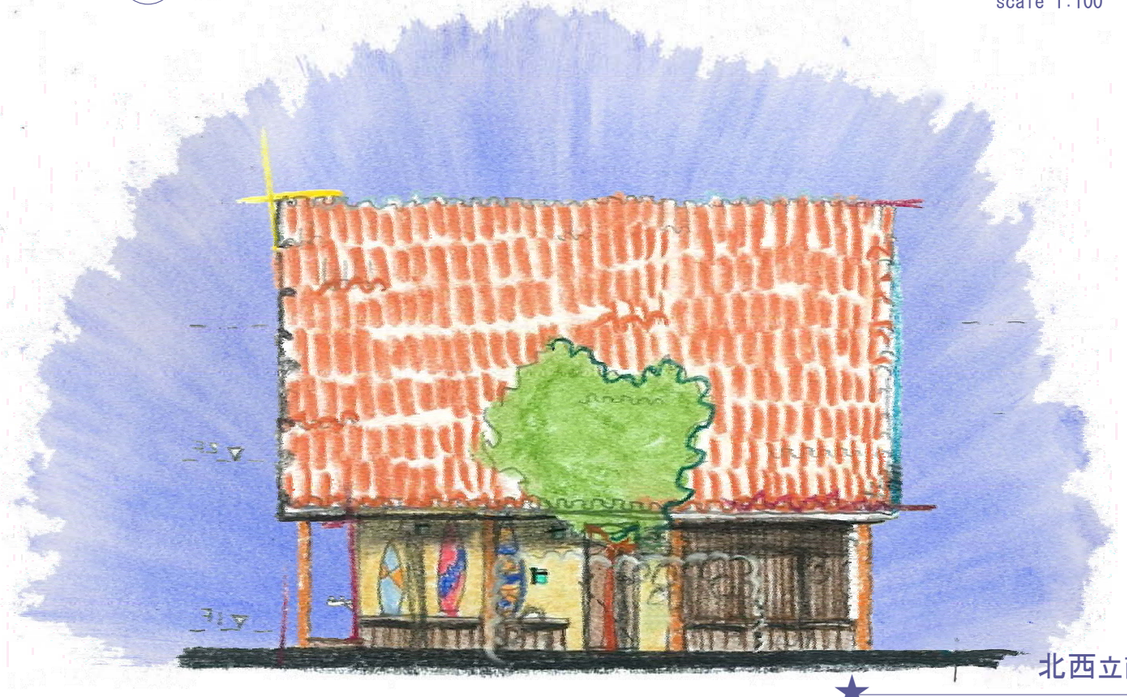
scale 1:100

## 大きな屋根の家

公園に面した角地で、優れたロケーションです。山側に既存する建物からの目線を考えて、北西側は開口部を少なくし、さらに大きい屋根で目隠することによりご安心いただけるプランにしました。

この間取りの最大の特徴は使い勝手の良さです。キッチンのシンクからは、窓越しに庭の景色を臨むことができますし、またカウンターを挟んでお子さまと会話をしながら家事を行うこともできます。キッチンから洗濯場所までの家事導線は短く、リビングやダイニングを通らずに洗った洗濯物を裏の物干場まで運ぶこともできて便利です。

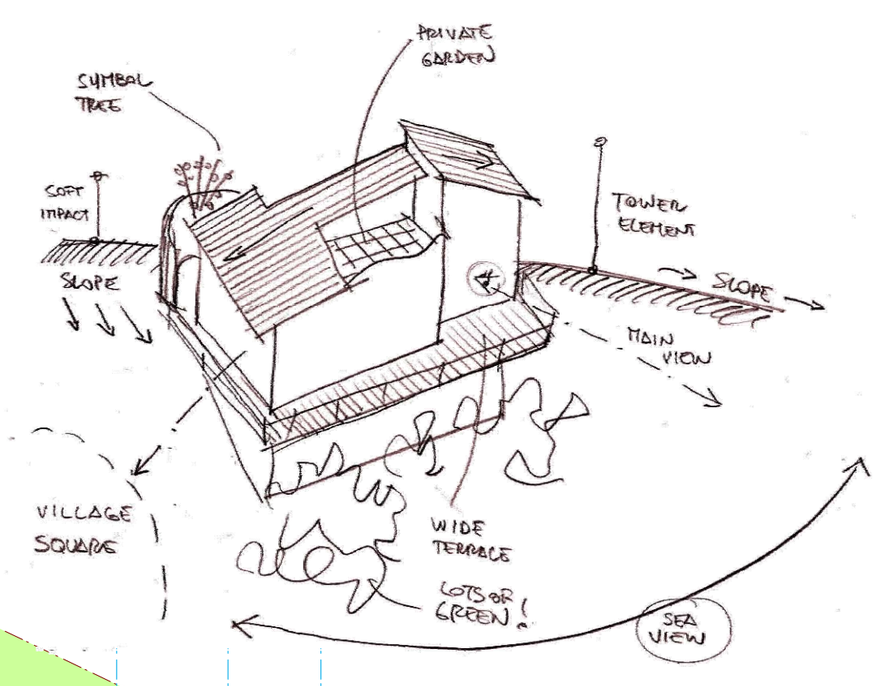
廊下に面した収納スペースは、食品庫、あるいは掃除に必要な道具入れとして、多目的に利用することができます。



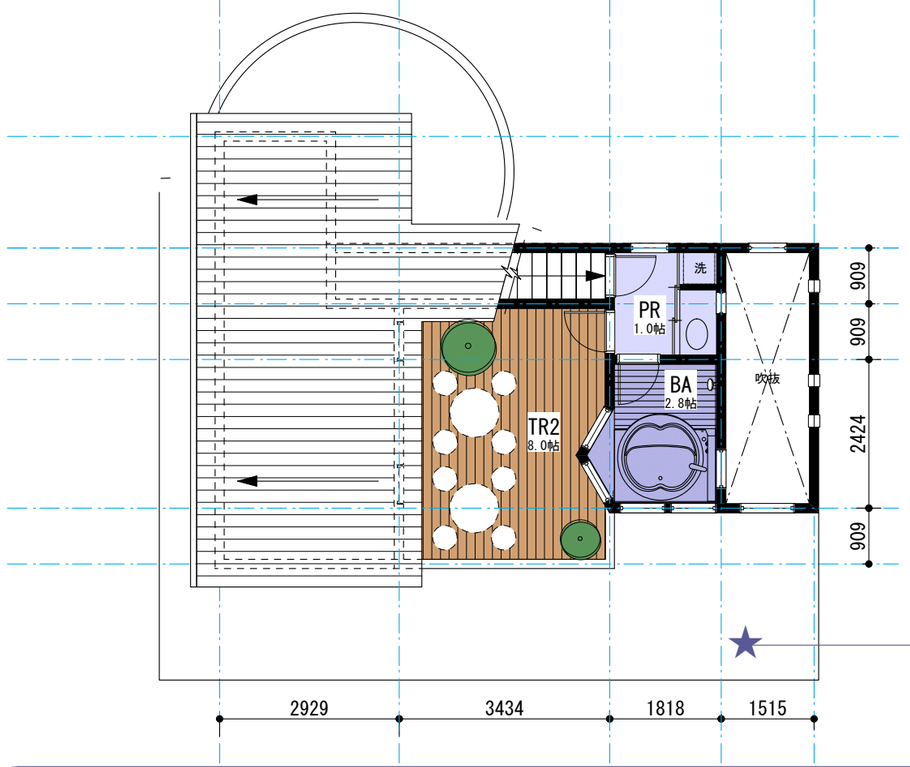
北西立面図

scale 1:100

## コンセプトスケッチ



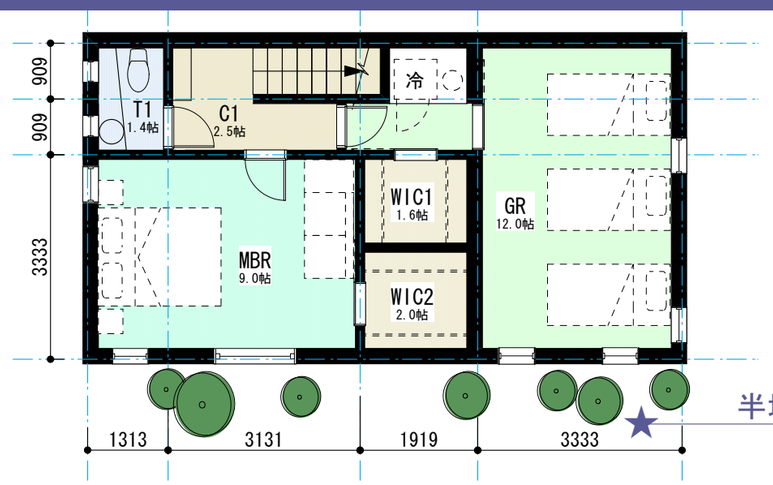
1階平面図
scale 1:100




2階平面図
scale 1:100

## パーティーの家

公園に面した敷地です。パーティーで人が集うことが多いお宅へ、柔軟性に富む間取りを考えました。まず、オーナー様のプライバシーは守れるよう、主寝室、ゲスト用の寝室は半地下に配置しました。各寝室には窓を設け、静かですが明るい造りになっています。1Fのリビングとダイニングは、可動式の棚で間仕切ることもでき、多用途に使えて便利です。3Fにある、壮大な景色に囲まれた風呂場は、絶好の場所に設置されています。窓からは、日の出日の入を思う存分楽しんでいただけます。屋上でのテラスパーティーをされるときは、窓を開放して露天風呂、またはプールとしてもご使用いただけます。




半地下階平面図
scale 1:100